

中国法書選

59

趙之謙集

清

二玄社

中国法書選
59

趙之謙集

清

二玄社

允耕之本在于趣時
 和土務糞澤旱鋤穫
 春凍解地氣始通土

一和解夏至天氣始
 暑陰氣始盛土復解
 夏至後九十日晝夜

凡耕之本。在于趣時和土。務糞澤。早鋤早穫。春凍解。地氣始通。土一和解。夏至天氣始暑。陰氣始盛。土復解。夏至後九十日。晝夜

凡そ耕の本は、時に趣いて土を和し、糞沢に務め、早く鋤き早く穫するに在り。春凍解け、地氣 始めて通じ、土は一に和解す。夏至に 天氣 始めて暑く、陰氣 始めて盛んにして、土は復た解く。夏至後の九十日に、晝夜〔分かれ〕、

分。天地氣和。以此時耕田。一而當五。名曰膏澤。皆得時功。春地氣通。可耕堅硬強地黑墟土。輒平摩其塊。以
 生艸。艸生復耕之。

分。天地氣和。以此時耕田。一而當五。名曰膏澤。皆得時功。春地氣通。可耕堅硬強地黑墟土。輒平摩其塊。以
 生艸。艸生復耕之。

天地の氣は和す。此の時を以て田を耕せば、一にして五に当たる。名づけて膏澤こくわくと曰い、皆な時功ときこうを得るなり。春に地氣通ずれば、堅硬けんごうの強地
 黒墟土くろこを耕す可し。輒ち其の塊を平摩へいまし、以て草を生ぜしめ、草生じて復た之を耕す。

候地氣始通
 椽椽木長尺二寸
 埋尺見其二寸
 立春後土塊散

天有小雨復耕和之
 勿令有塊以待時
 所謂強土而弱之也
 春

天有小雨。復耕和之。勿令有塊以待時。所謂強土而弱之也。春候地氣始通。椽椽木長尺二寸。埋尺見其二寸。立春後。土塊散。

天に小雨有り、復た耕して之を和し、塊有ら令めて以て時を待つ勿かれ。所謂強土にして之を弱する也。春に地氣始めて通ずるを候うは、椽木 長さ尺二寸を椽し、尺を埋め其の二寸を見わす。立春の後、土塊散じ、

上沒櫛陳根可拔
 此時二十日以後和氣去
 則土剛以此時耕
 一而當四和氣去耕
 四不當一

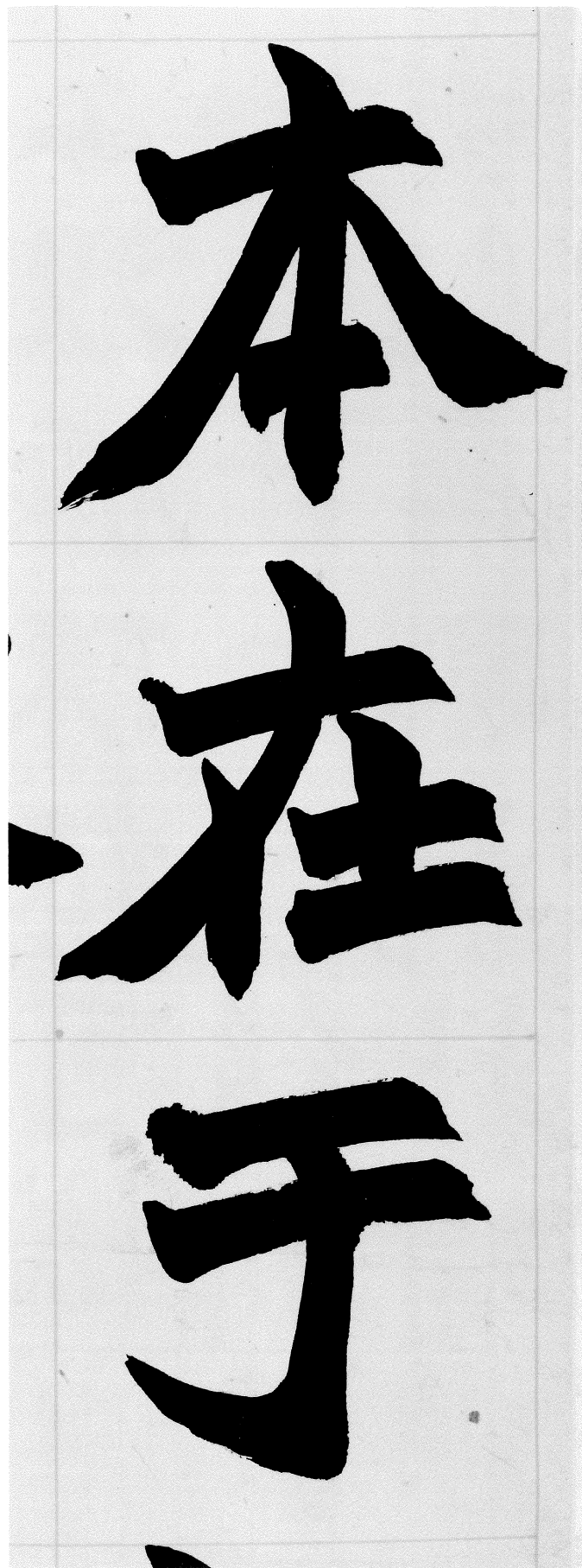
一而當四和氣去耕
 四不當一

齊民要術引汜勝之書出請
 權伯尊兄方家指正弟趙之謙



上沒櫛。陳根可拔。此時二十日以後。和氣去。則土剛。以此時耕。一而當四。和氣去耕。四不當一。 齊民要術引汜勝之書。書請權伯尊兄方家指正。弟趙之謙。

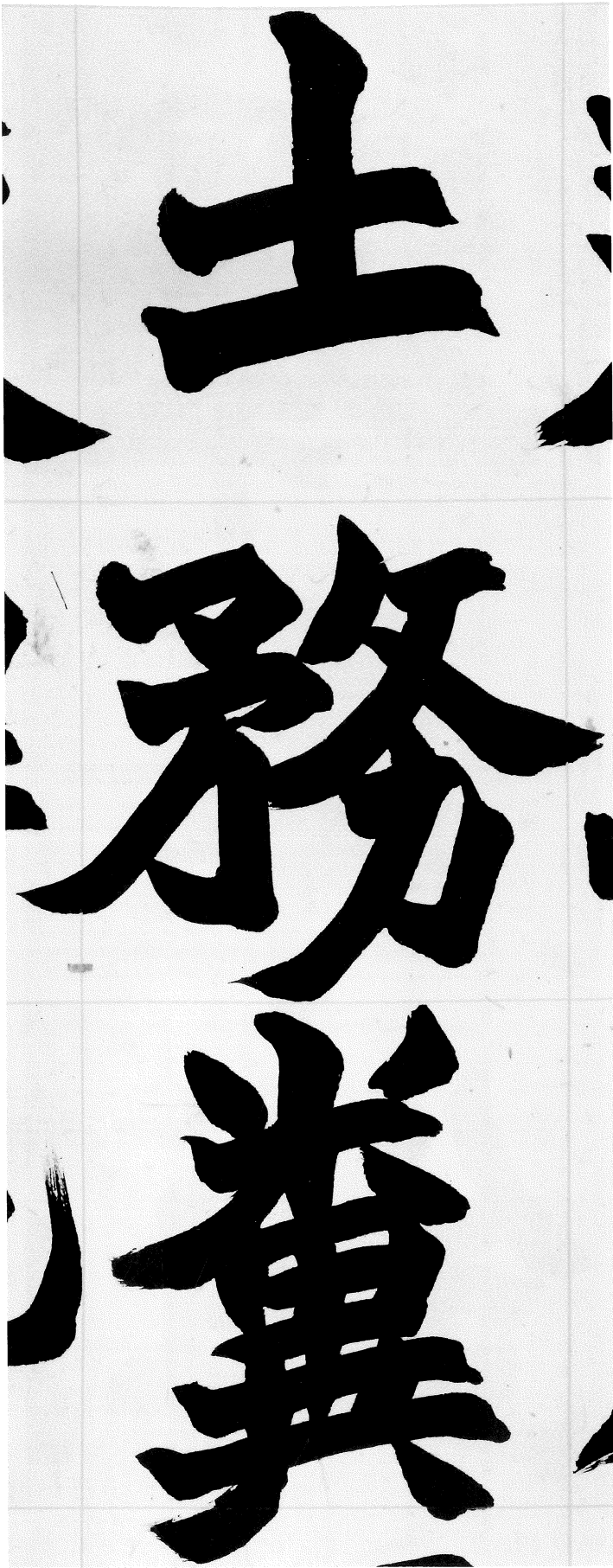
上りて櫛を沒し、陳根も抜く可し。此の時の二十日以後、和氣去れば、則ち土は剛なり。此の時は以て耕せば、一にして四に当たる。和氣去りて耕せば、四も一に当たらず。 齊民要術 汜勝之書を引く。書して權伯尊兄方家の指正を請う。弟趙之謙。



凡耕之本在于



凡耕之本在于



趣時和土務糞

獲

春

凍

澤

早

鉏

澤早鉏獲春凍

始

解

通

地

土

氣

解地氣始通土



一和解夏至天

陰
氣
始

氣
始
暑

氣始暑陰氣始

解

夏

至

盛

土

復

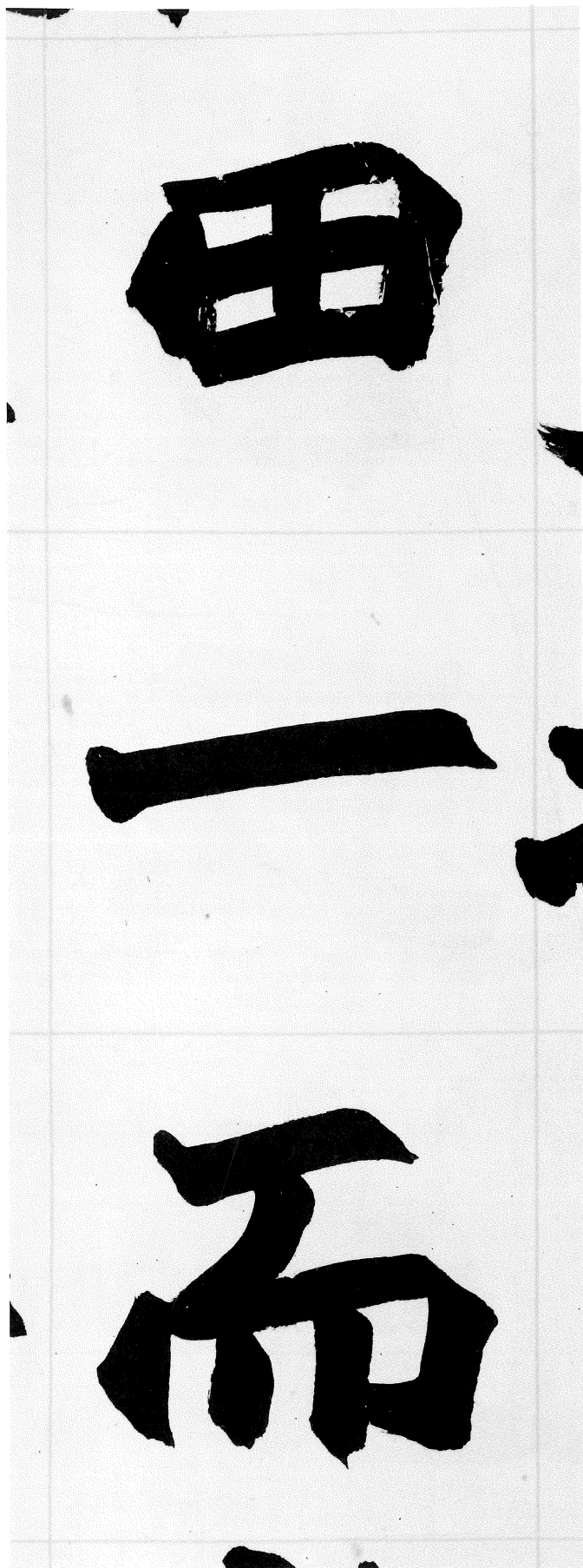
盛土復解夏至

日
晝
夜

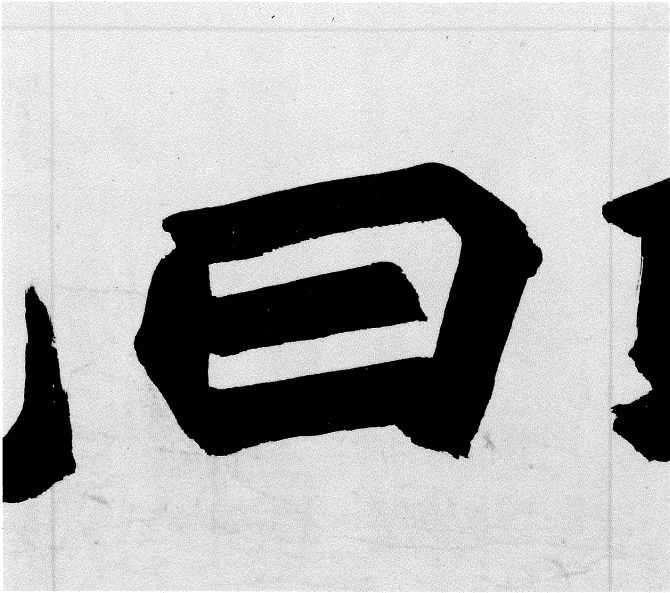
後
九
十

氣
和
以

分
天
地



此時耕田一而



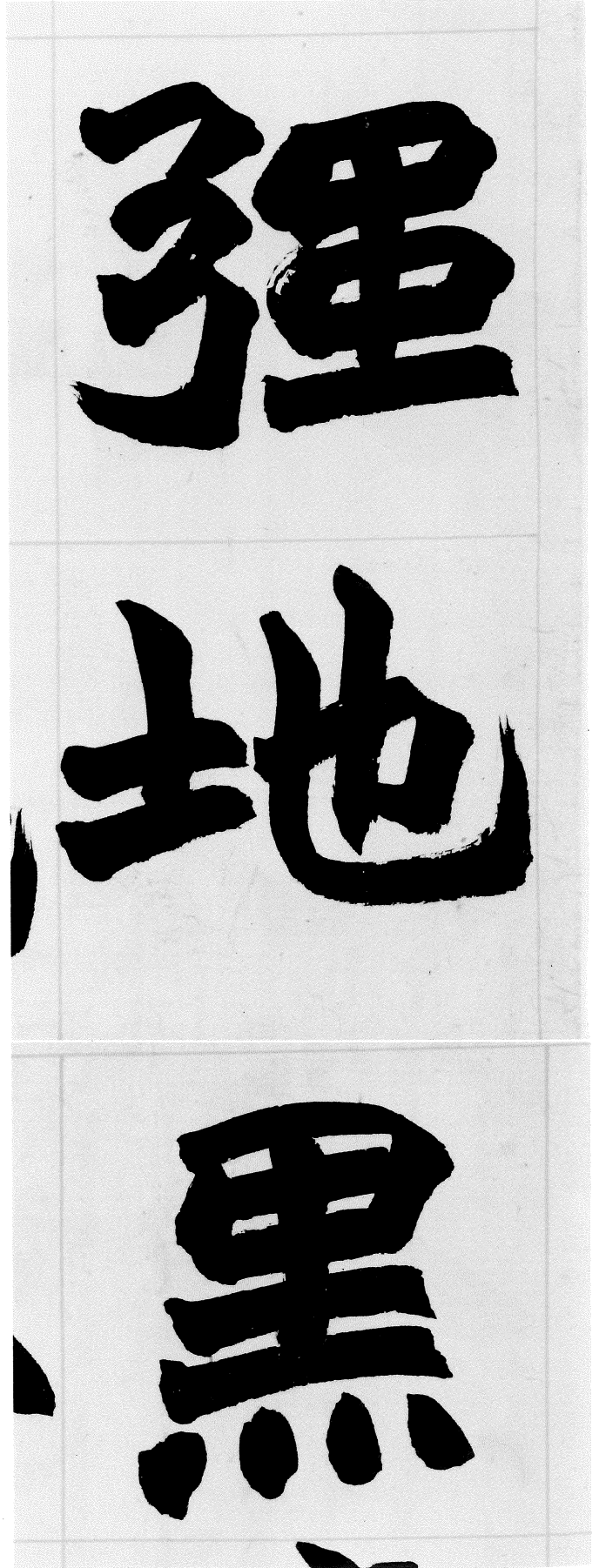
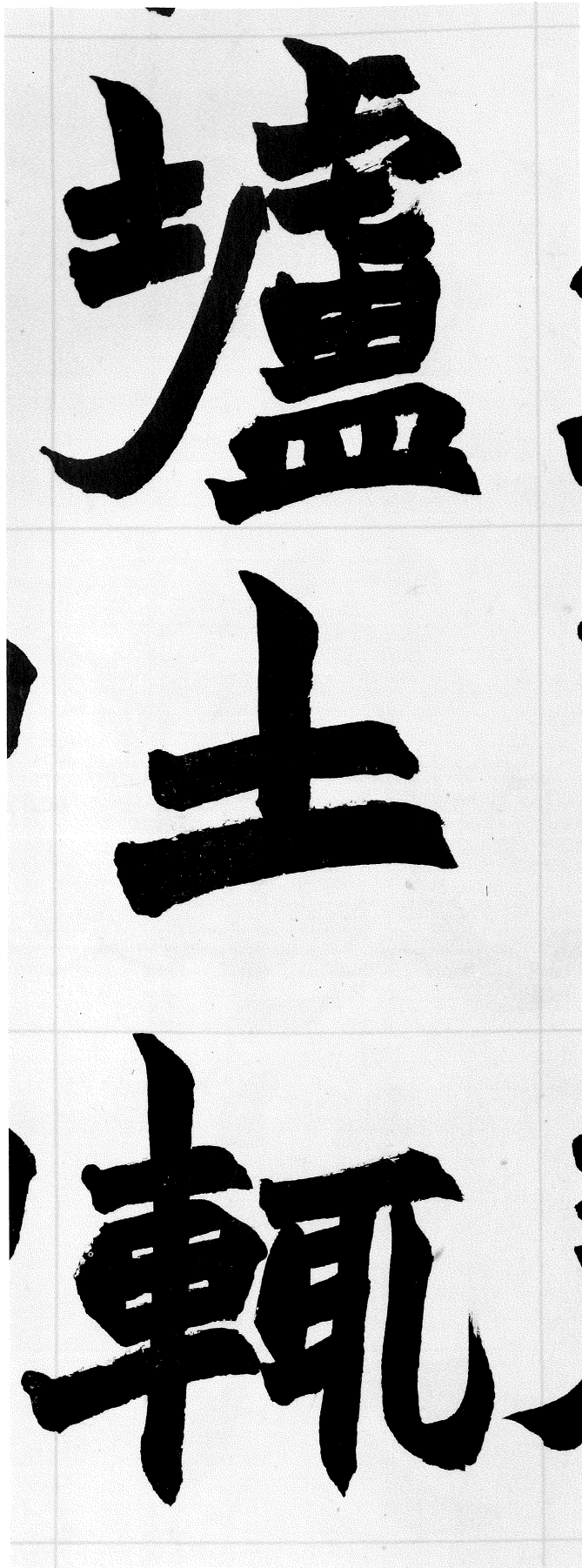
當五名曰膏澤

功
春
地

皆
得
時

耕
堅
硬

氣
通
可



強地黑墟土輒

塊

以

生

平

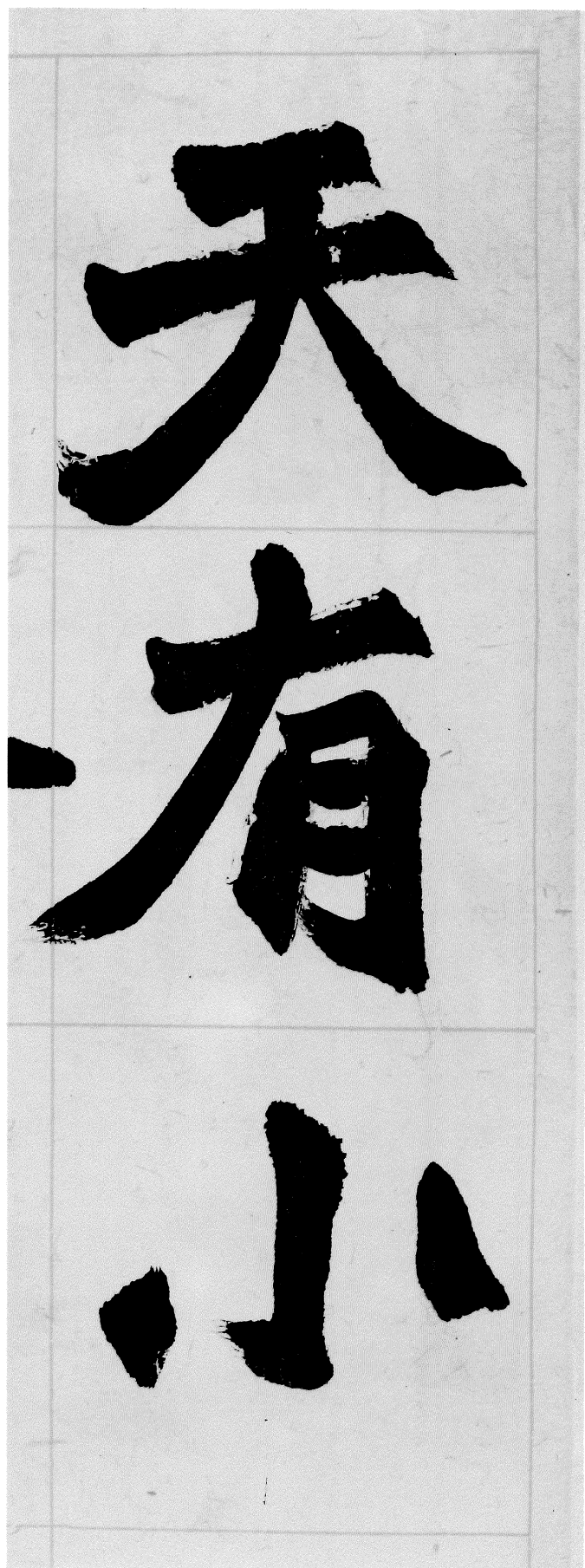
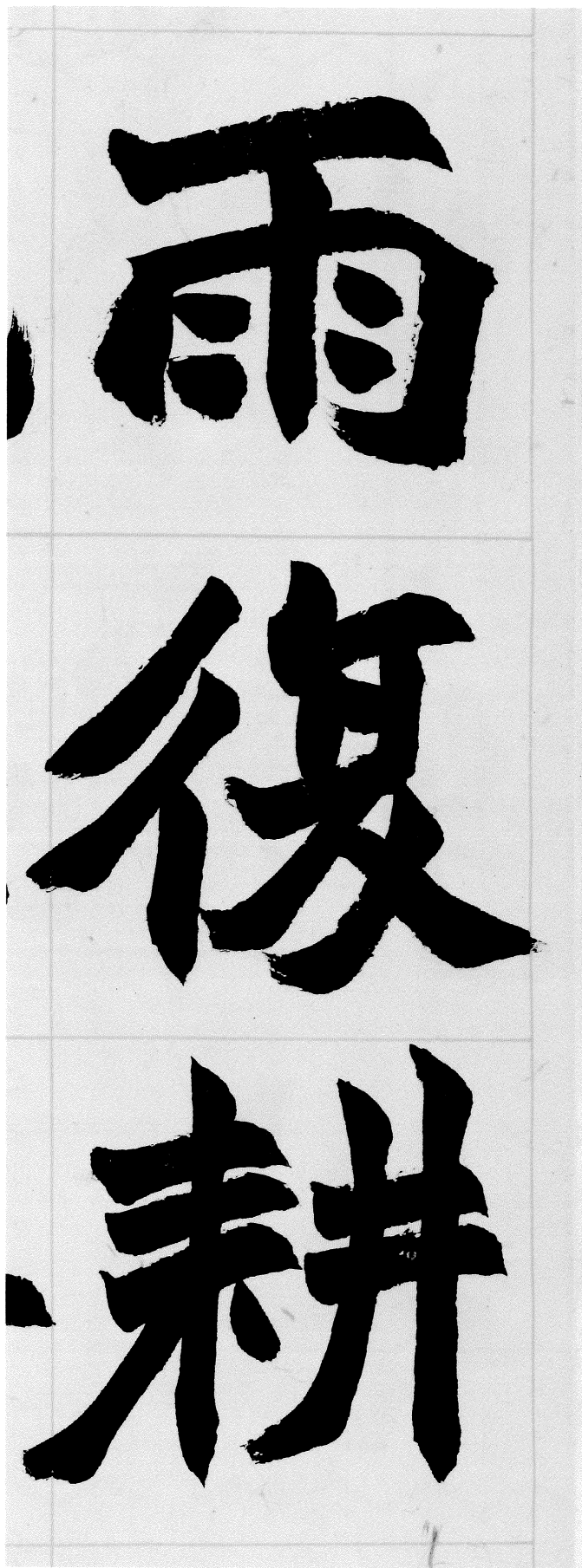
摩

其

復
耕
之

州
州
生

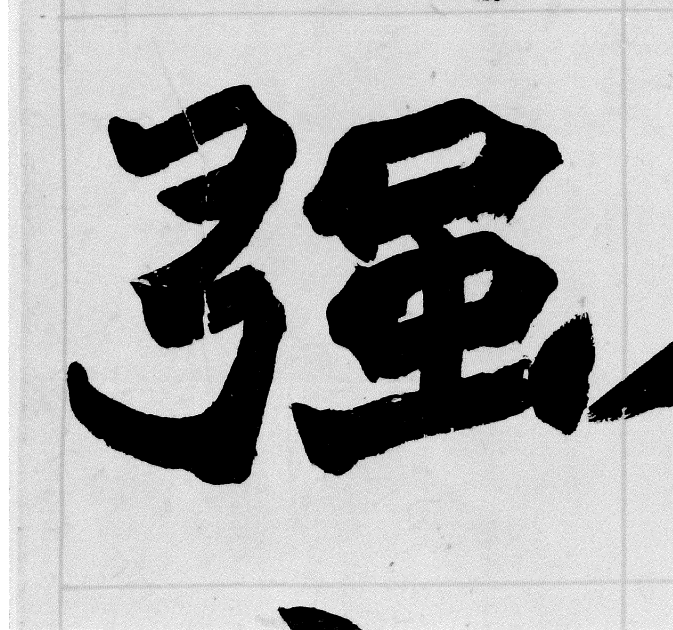
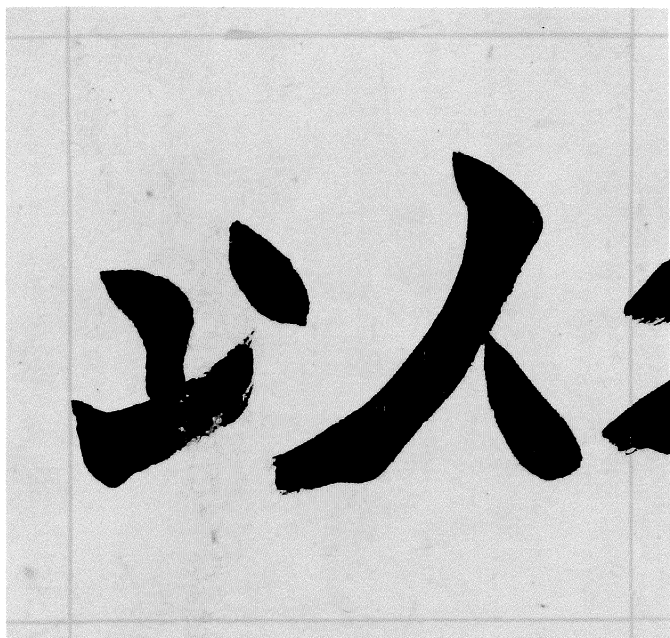
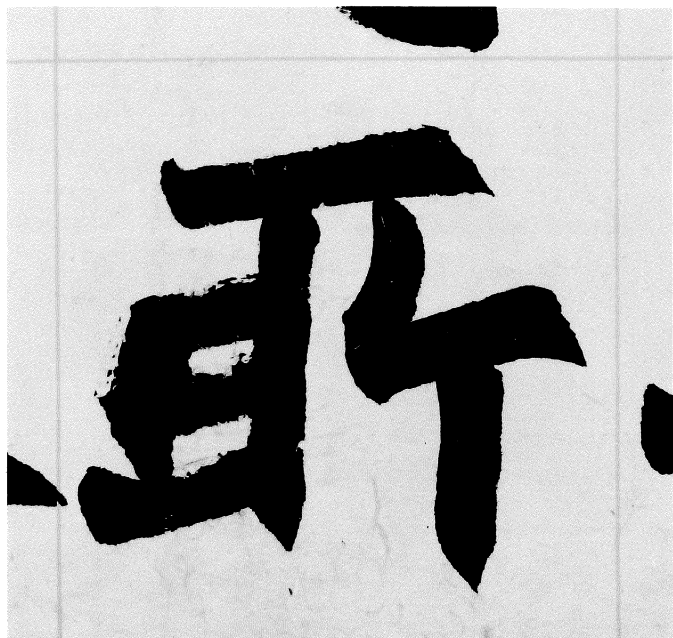
艸艸生復耕之



天有小雨復耕



和之勿令有塊

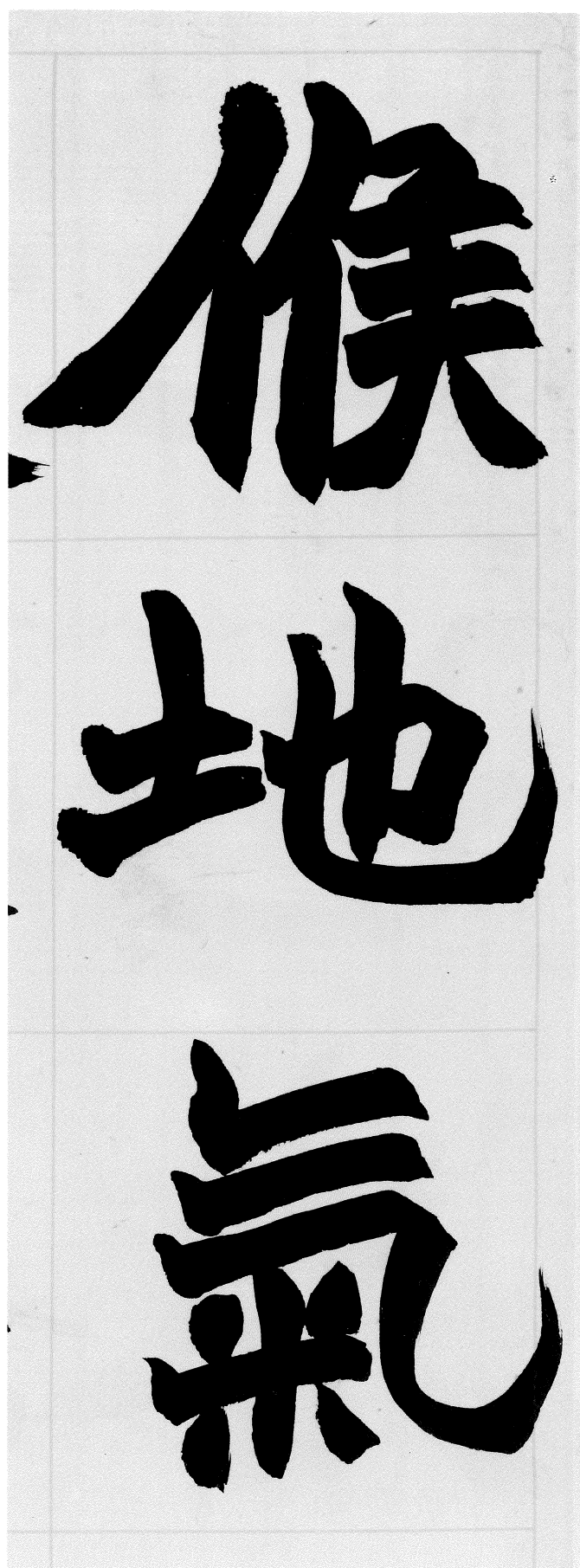


以待時所謂強

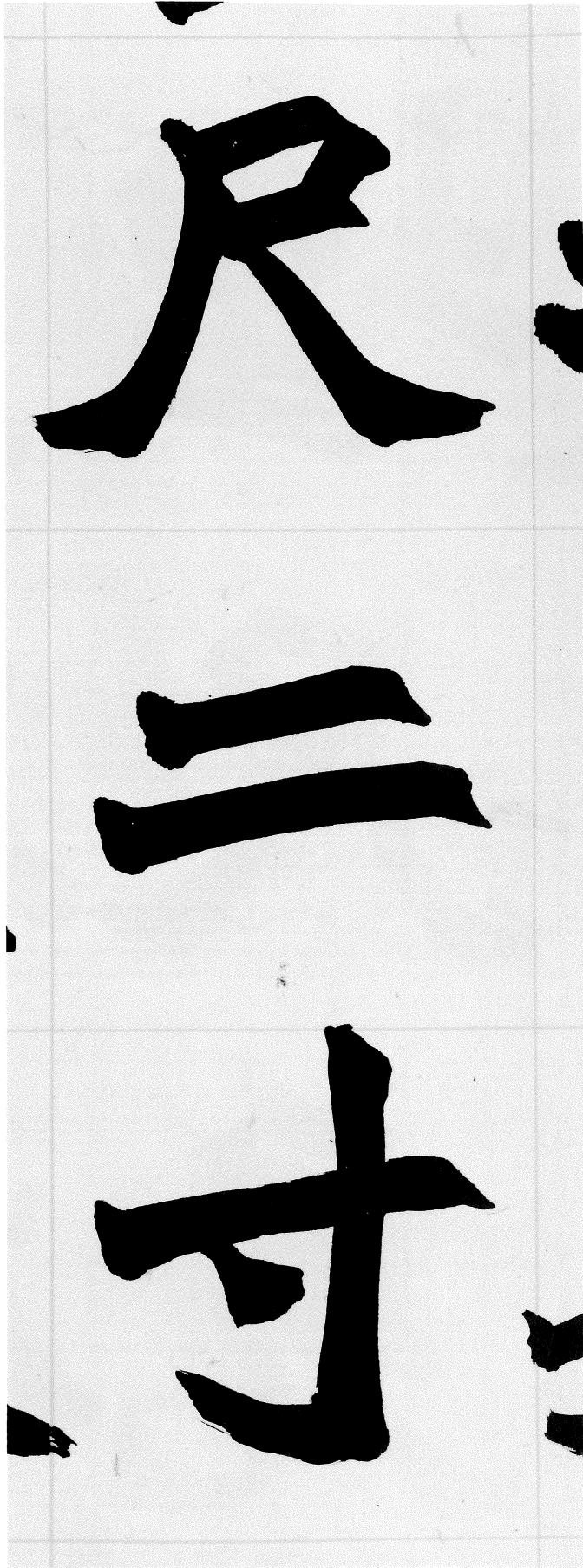
之也春

土而弱

土而弱之也春



候地氣始通榑



榧木長尺二寸

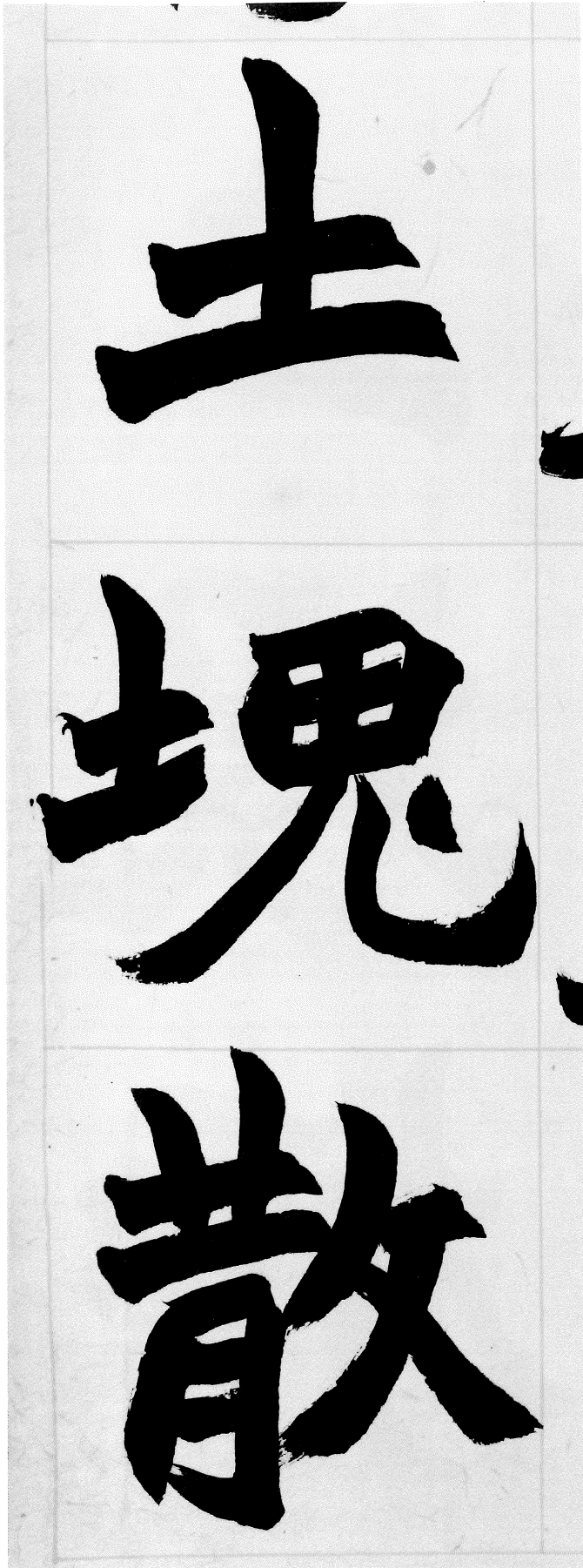
其

埋

二寸

尺見

埋尺見其二寸



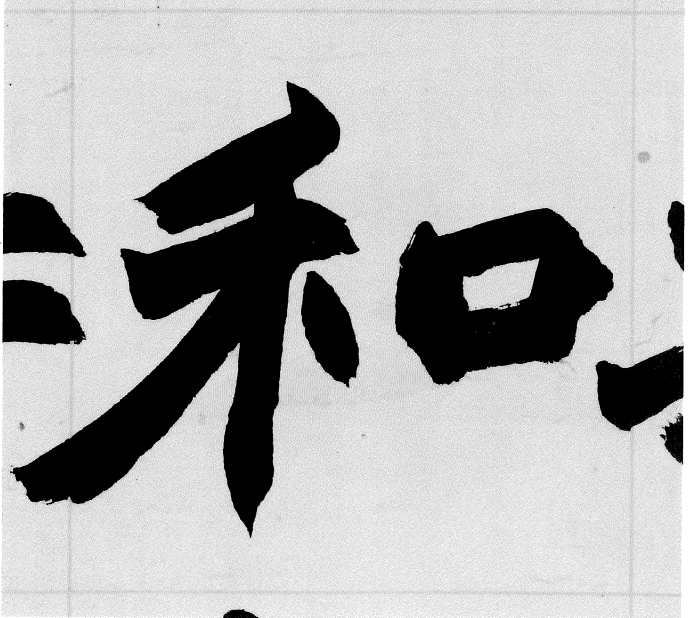
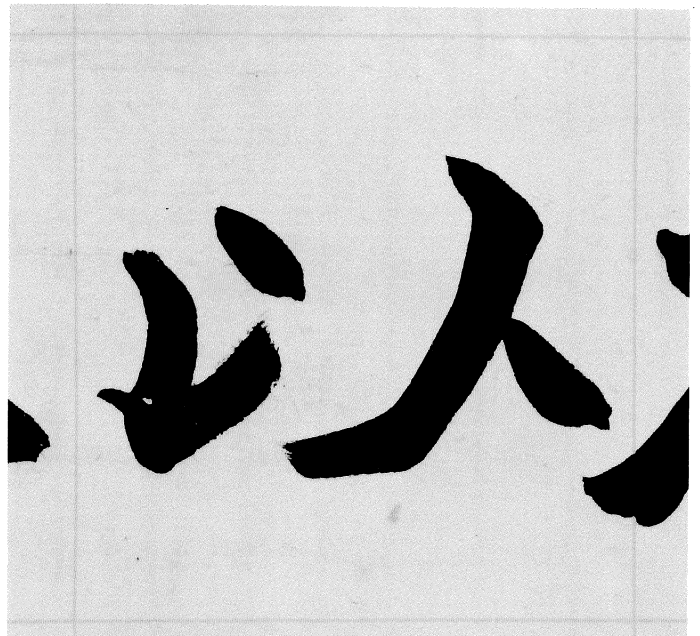
立春後土塊散



上沒檝陳根可



拔此時二十日

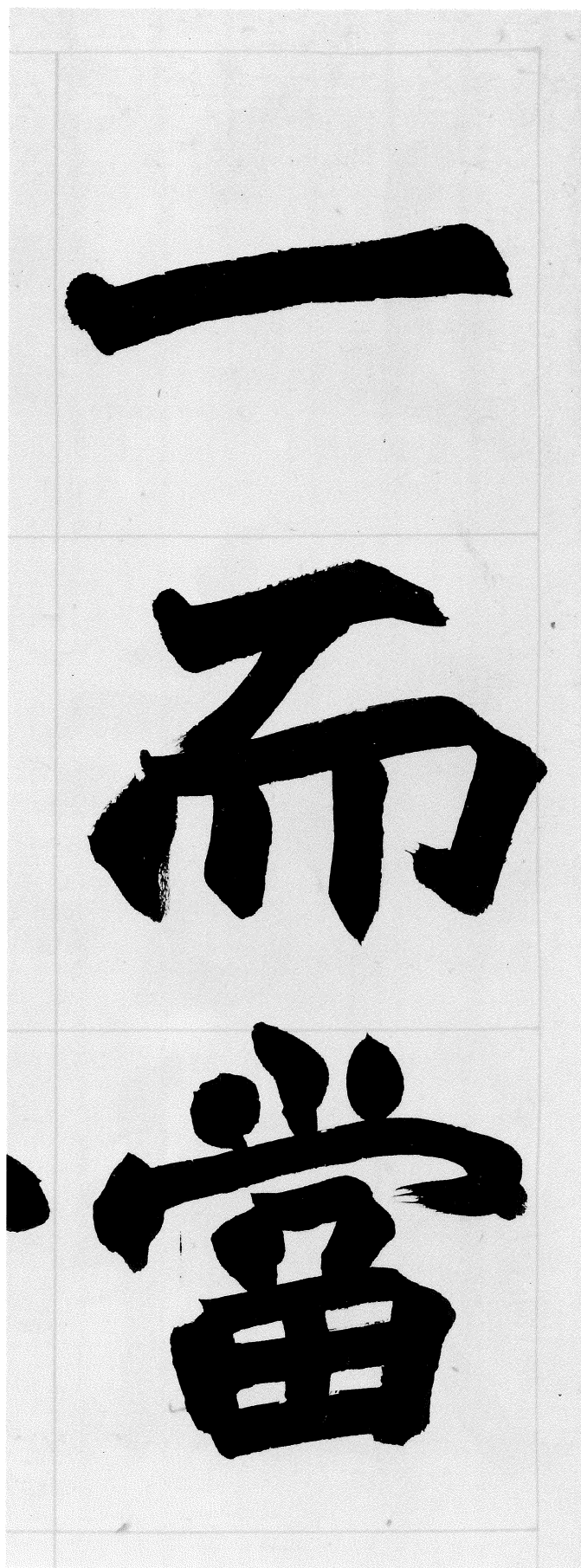
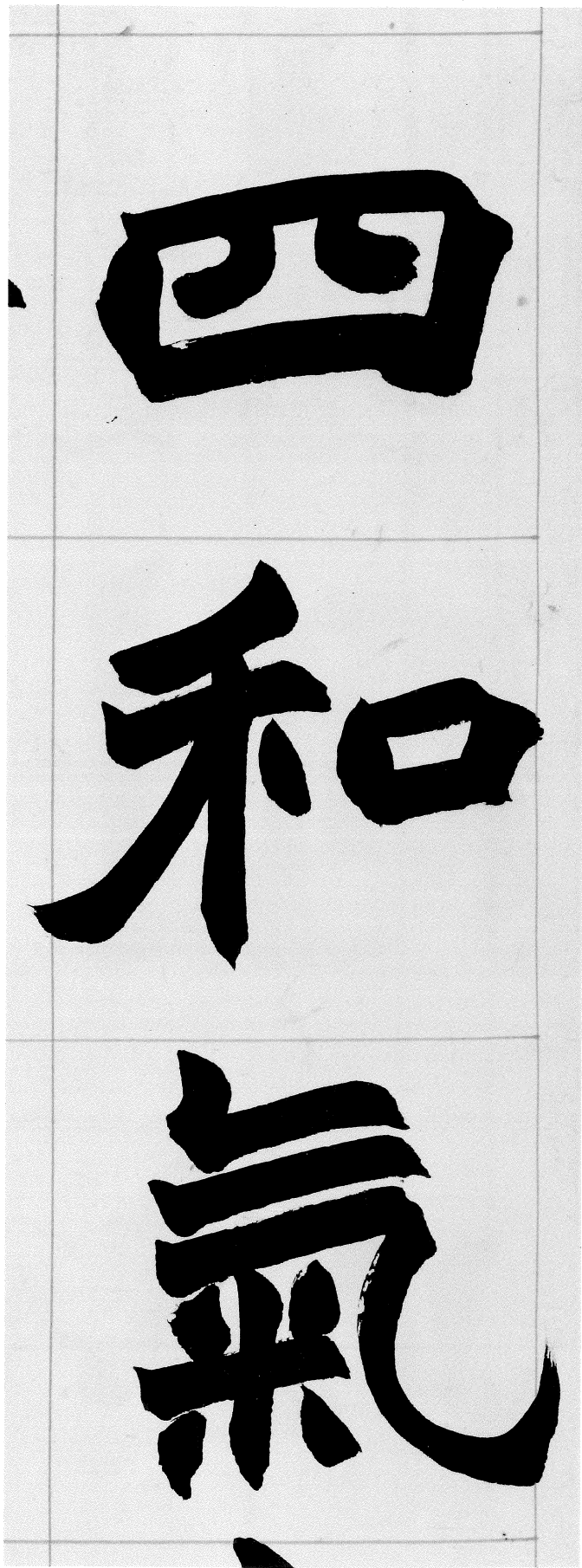


以後和氣去則

此
 時
 耕

土
 剛
 以

土剛以此時耕



一而當四和氣

不
當
一

去
耕
四

齊民要術引

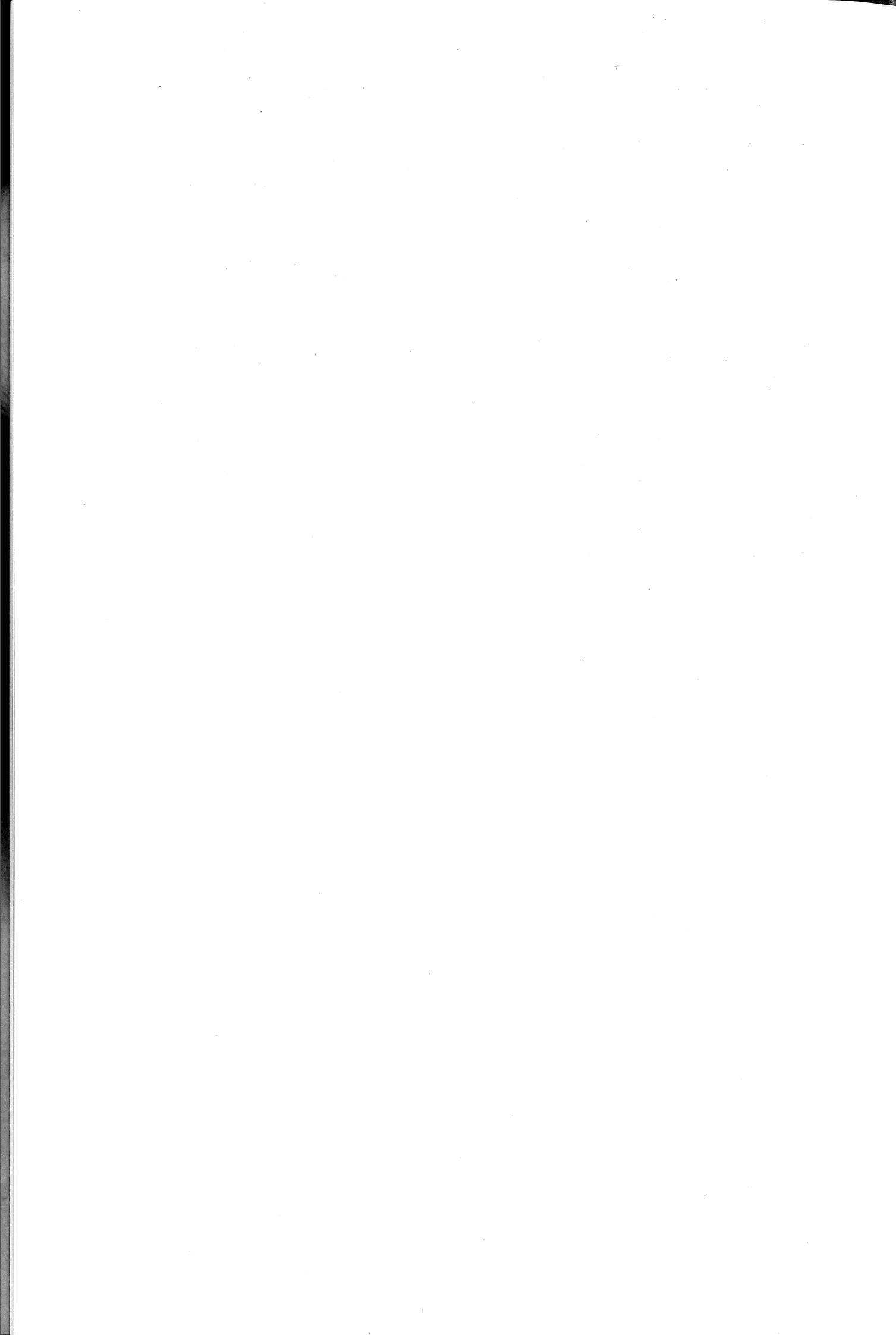
汜勝之書出請

權伯尊兄方家

指正弟趙之謙



齊民要術引汜勝之書。書請權伯尊兄方家指正。弟趙之謙。



而也者可
 末道死為
 天而渾色
 體形成渾
 又其先純
 永遲天不
 久速地必
 焉固生故
 斯未其道
 為可氣德
 龐得體之

根久象太
 既焉厥素
 達斯中之
 自以惟先
 無溟靈幽
 生滓麻清
 有蓋外元
 太乃惟靜
 素道無冥
 始之如默
 萌根是帝

太素之先。幽清元靜。寂寞冥默。不可為象。厥中惟靈。厥外惟無。如是者。永久焉。斯以溟滓。蓋乃道之根也。道根既建。自無生有。太素始萌。可為色。渾沌不分。故道德之者。永渾成。先天地生。其氣體也。道而形。其遲速固未可得而未天體。如是者。又永久焉。斯為龐

太素の前は、幽清玄靜、寂寞冥黙にして、象を為す可からず。厥の中は惟だ靈、厥の外は惟だ無。是の如き者、永久なり焉。斯を溟滓と謂う。蓋し乃ち道の根也。道根 既に建ち、無自り有を生じ、太素 始めて萌す。萌して未だ兆せず、氣を併せて色を同じうし、渾沌は分かれず。故に道志の言に云う、物有りて渾成し、天地に先だちて生ず。其の気体は固より未だ得て形す可からず、其の遅速は固より未だ得て紀す可からざる也。是の如き者、又た永久なり焉。斯を龐〔瀟〕と謂う。

鴻蓋乃道之幹也。道幹既育。有物成體。於是元氣剖判。剛柔始分。清濁異位。天成於外。地定於內。天體於陽。故員目動。地體於陰。故有物施。方以合化。堙燠萬民分清。斯為太元。蓋乃道之實。元占經。一引靈憲。

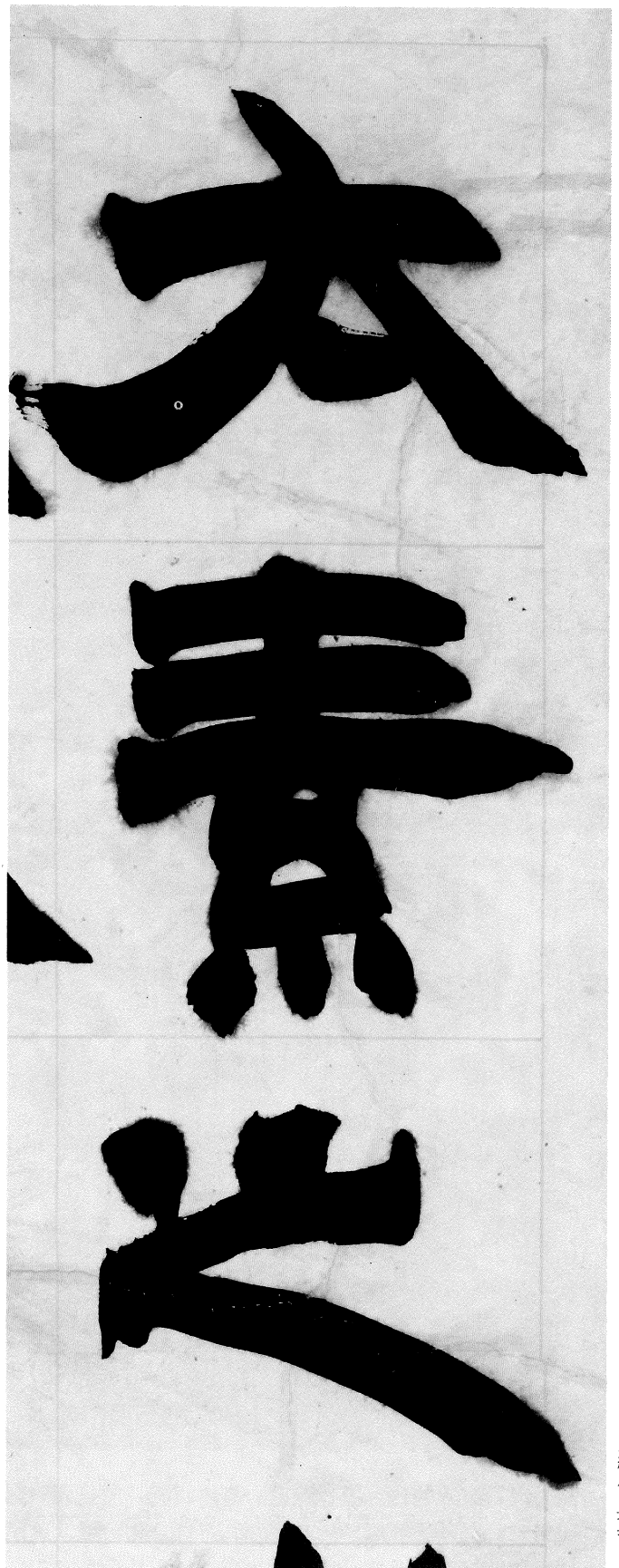
有物成體。於是元氣剖判。剛柔始分。清濁異位。天成於外。地定於內。天體於陽。故員目動。地體於陰。故有物施。方以合化。堙燠萬民分清。斯為太元。蓋乃道之實。元占經。一引靈憲。

同治戊辰閏月趙之謙

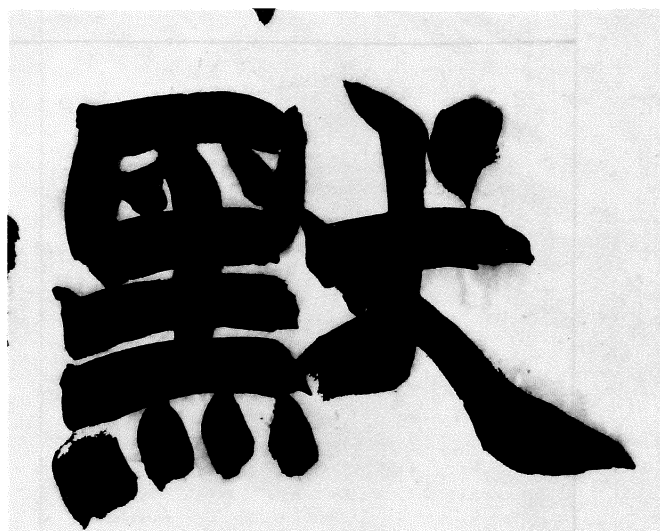


鴻。蓋乃道之幹也。道幹既育。有物成體。於是元氣剖判。剛柔始分。清濁異位。天成於外。地定於內。天體於陽。故員目動。地體於陰。故有物施。方以合化。堙燠萬民分清。斯為太元。蓋乃道之實。元占經。一引靈憲。同治戊辰閏月。趙之謙。

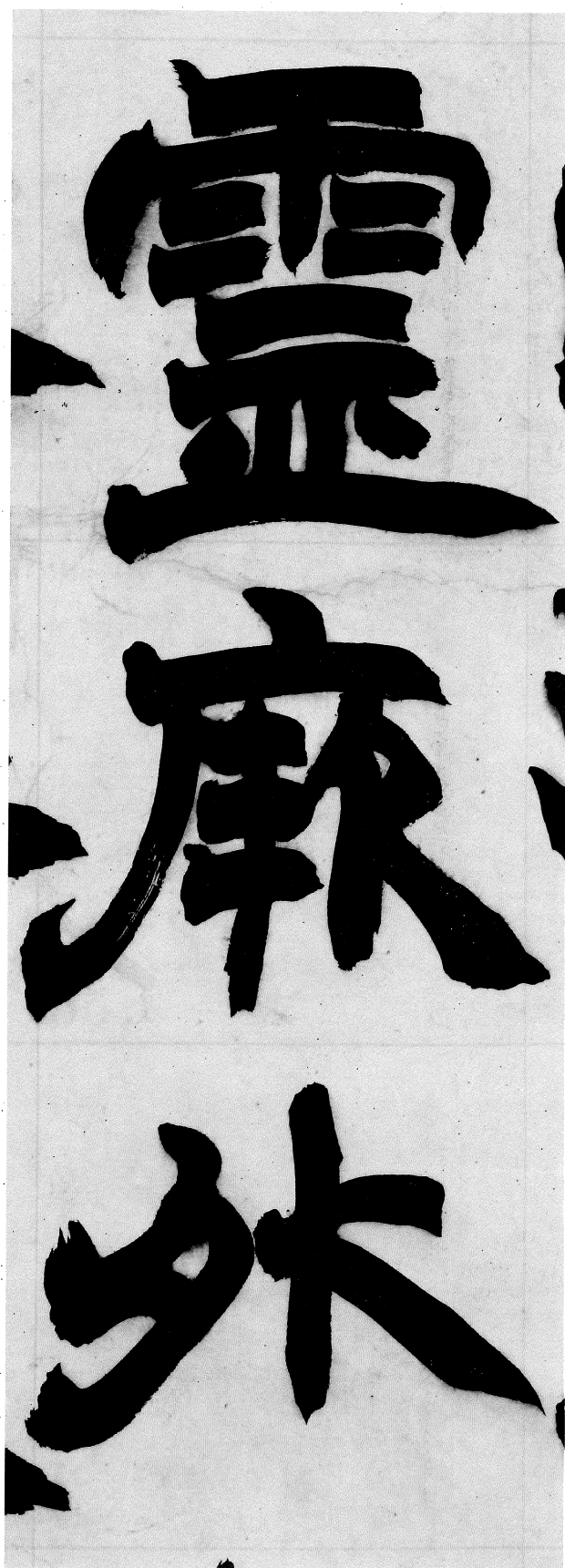
蓋し乃ち道の幹也。道幹 既に育ち、物有りて体を成す。是に於いて元氣剖判し、剛柔 始めて分かれ、清濁 位を異にし、天は外に成り、地は内に定まる。天体は陽に於いてす、故に円にして以て動く。地体は陰に於いてす、故に平らかにして以て静かなり。動けば行を以て施し、静かなれば合を以て化す。堙燠して精を構すれば、時に庶類を育つ。斯を太素と謂う。元占經、一に靈憲を引く。同治戊辰閏月。趙之謙。



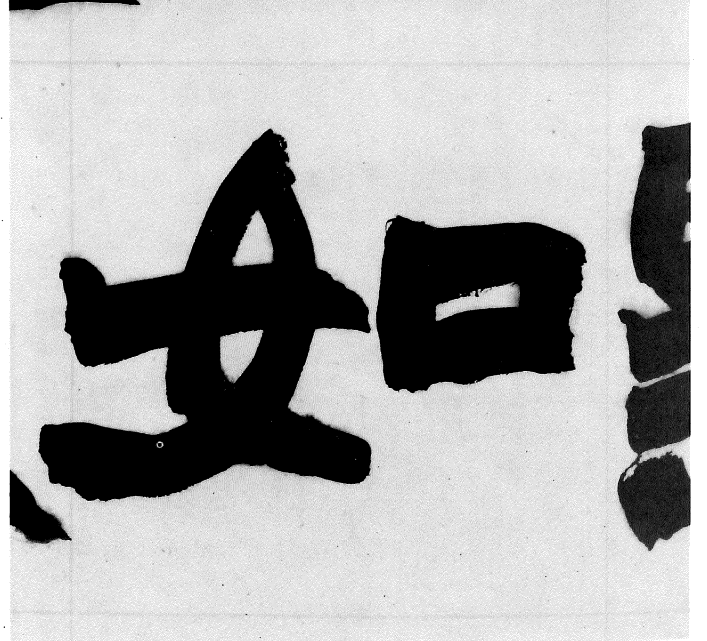
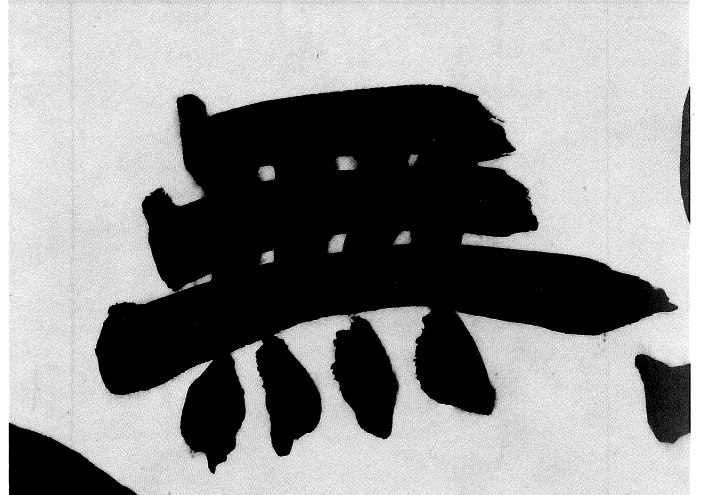
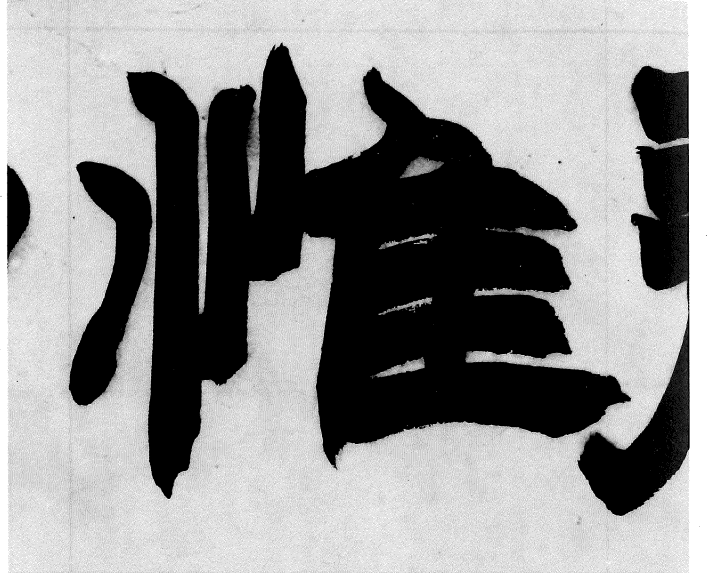
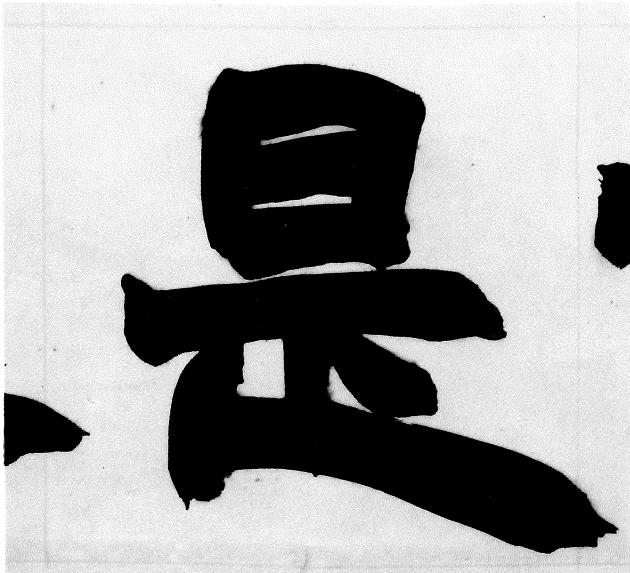
太素之先幽清



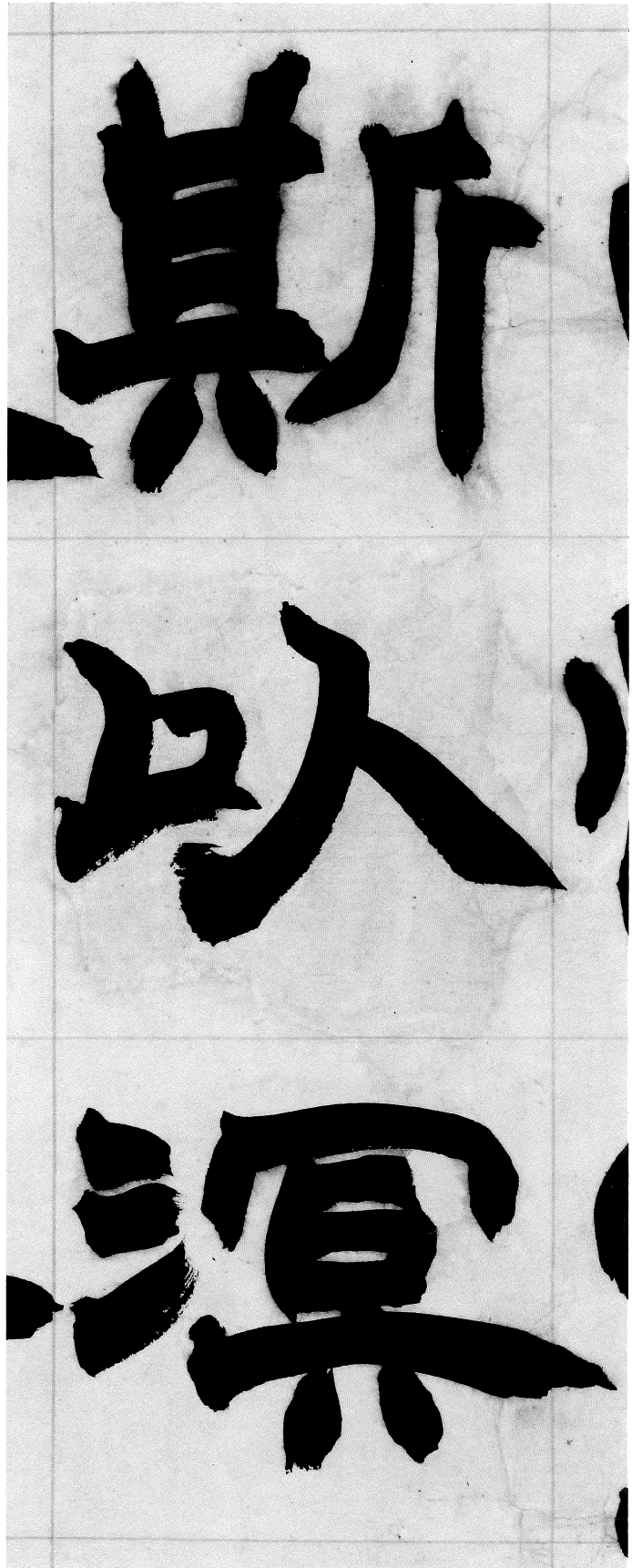
元靜冥默不象



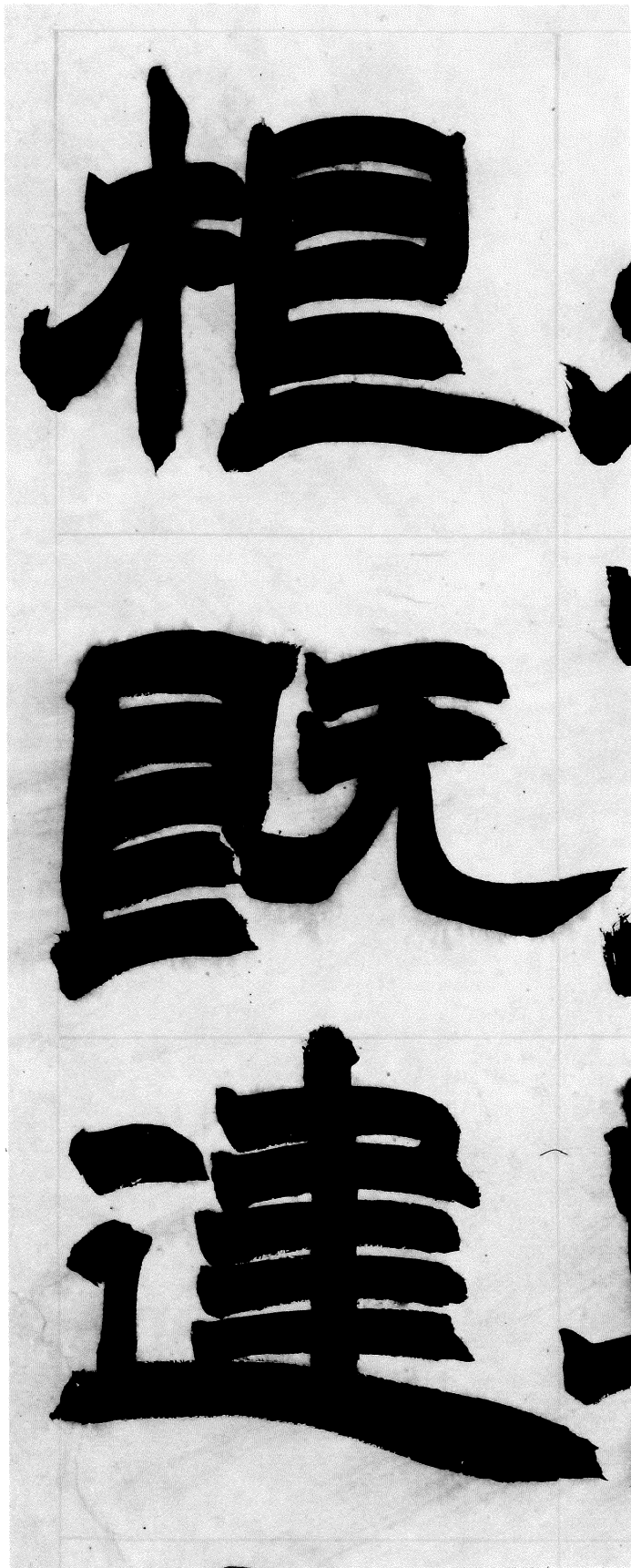
厥中惟靈厥外



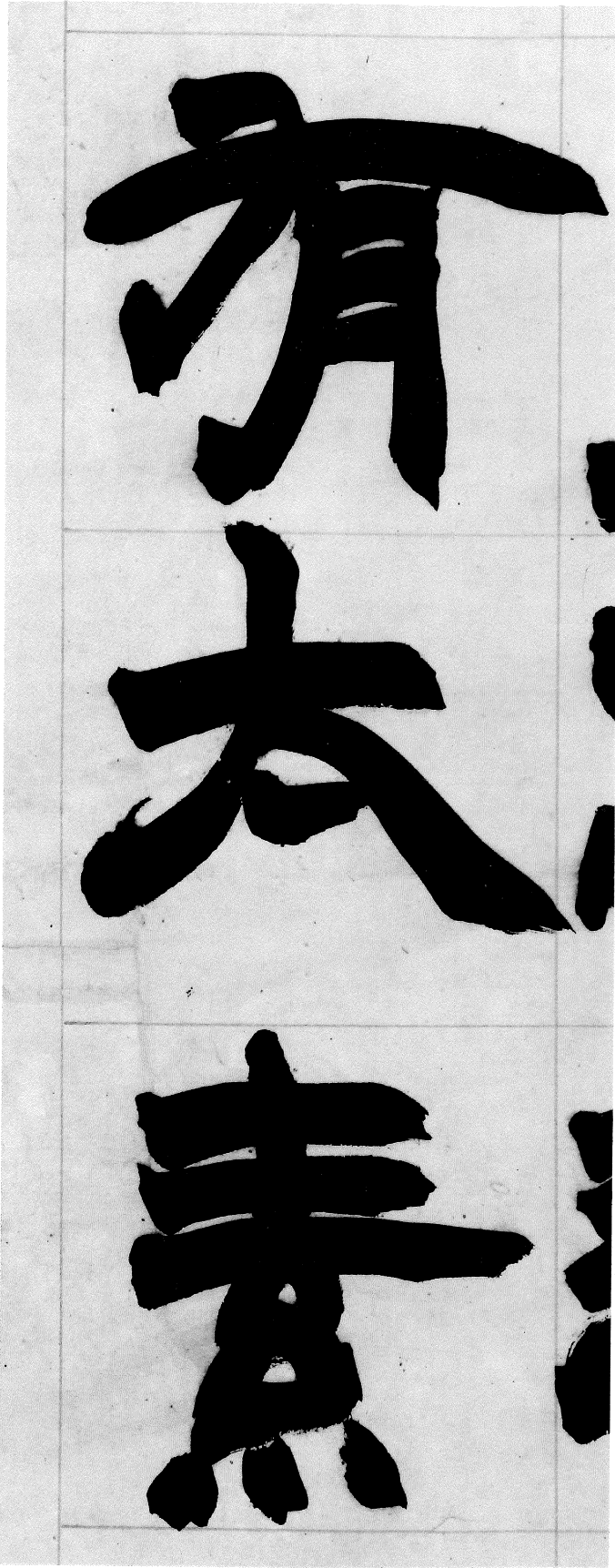
惟無如是久焉



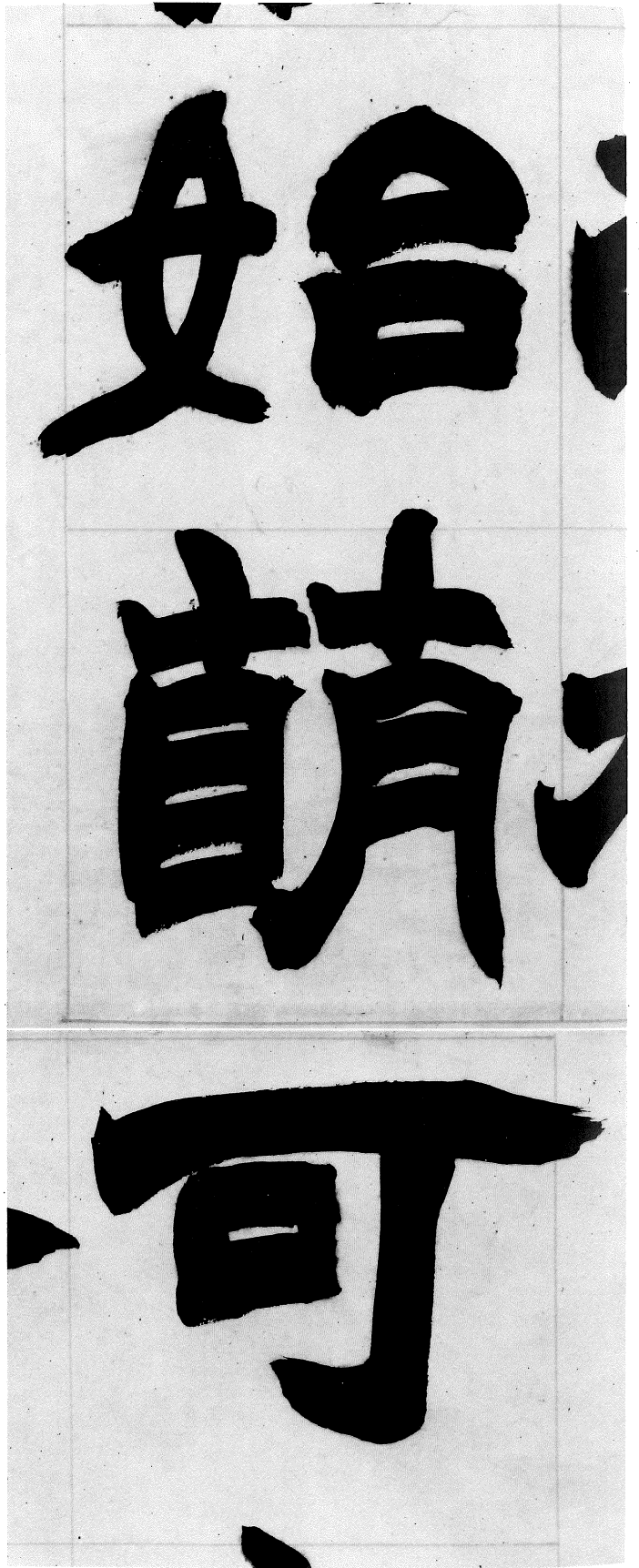
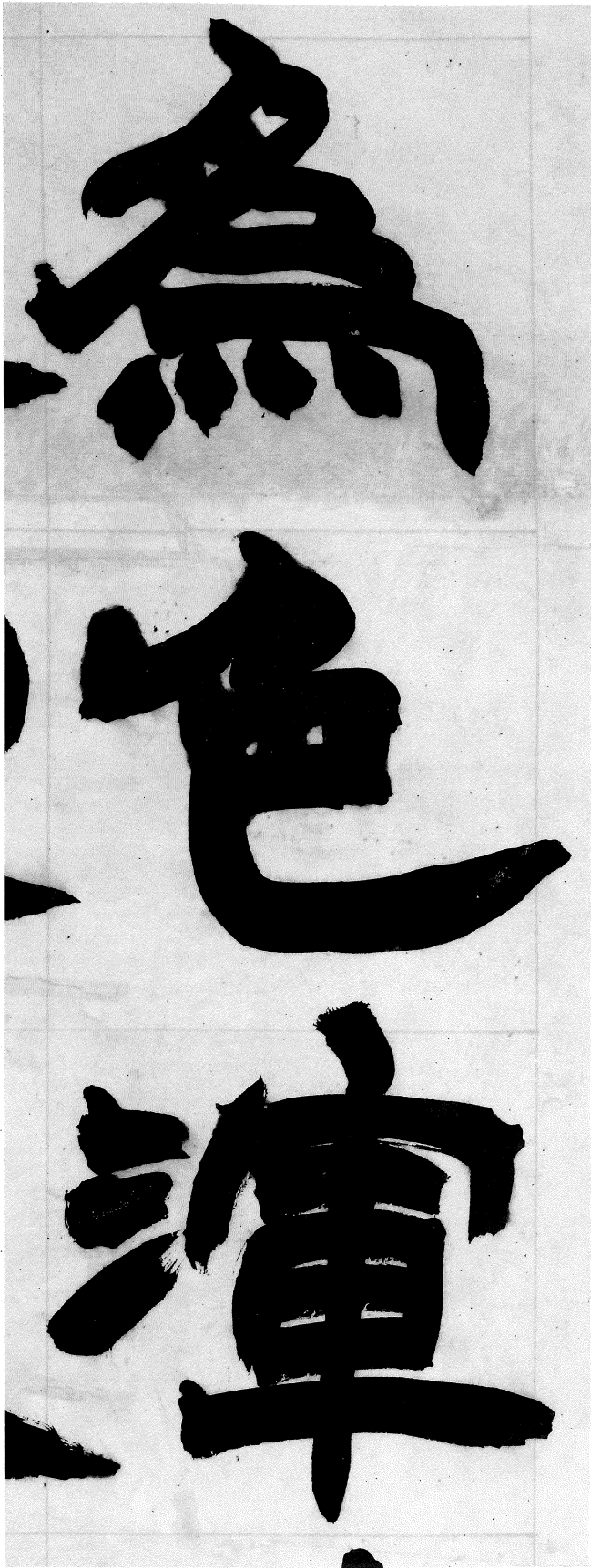
斯以溟洋蓋乃



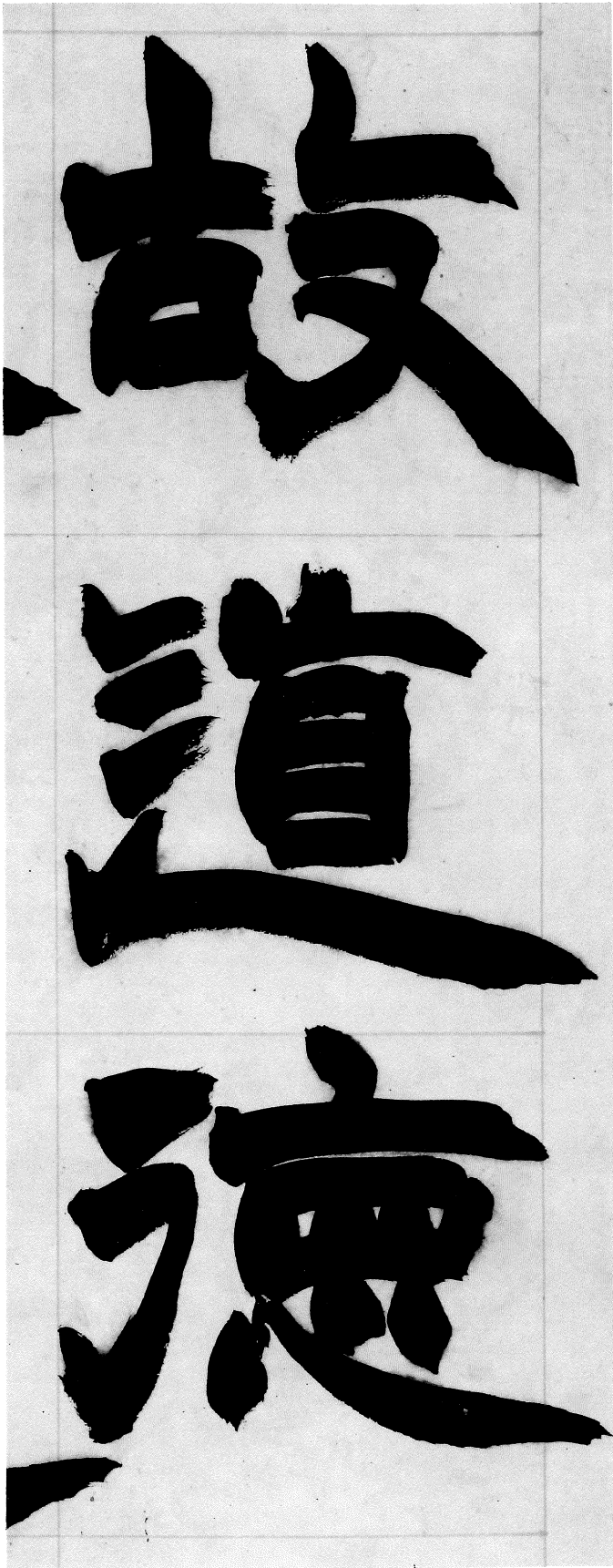
道之根根既建



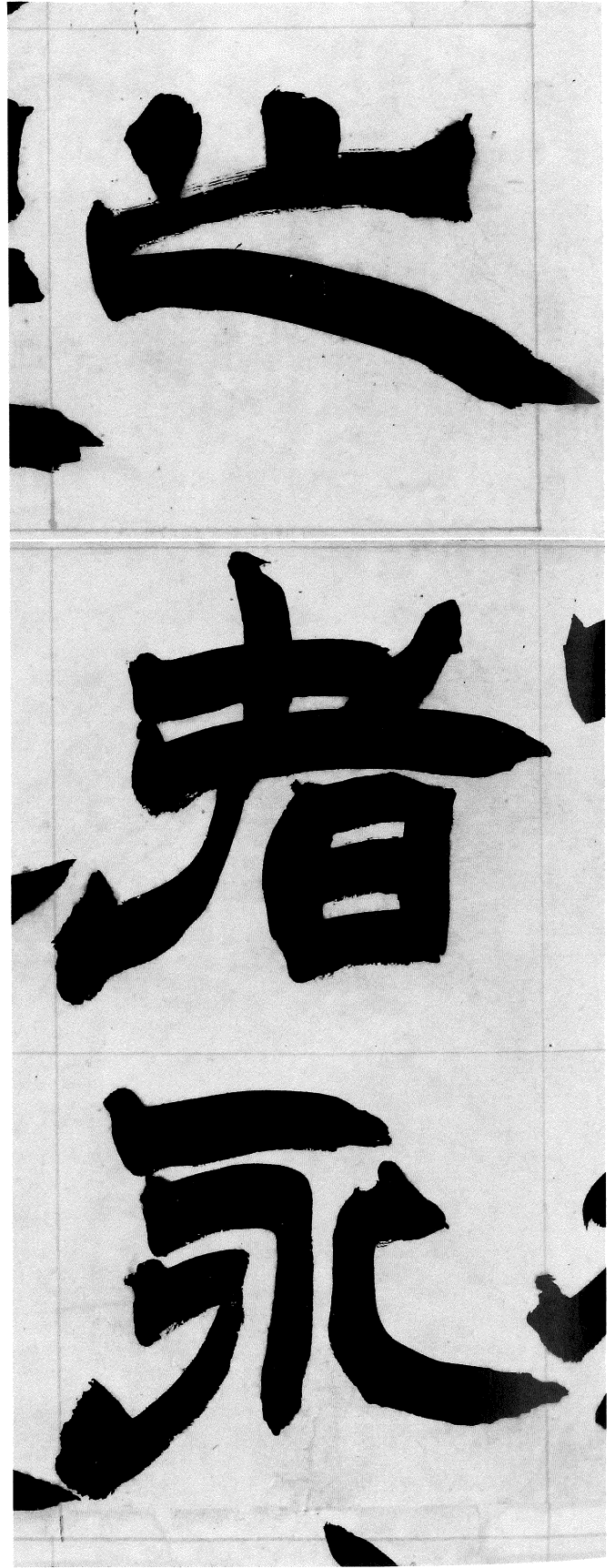
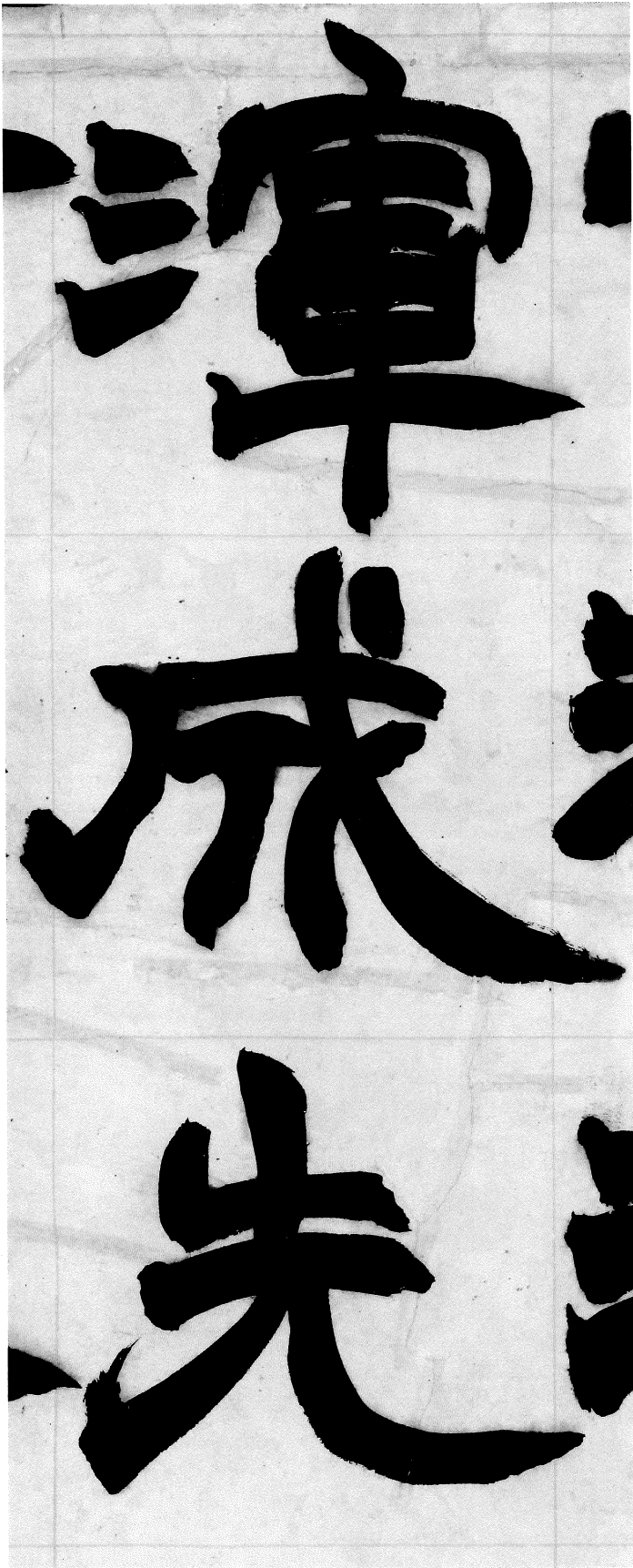
自無生有太素



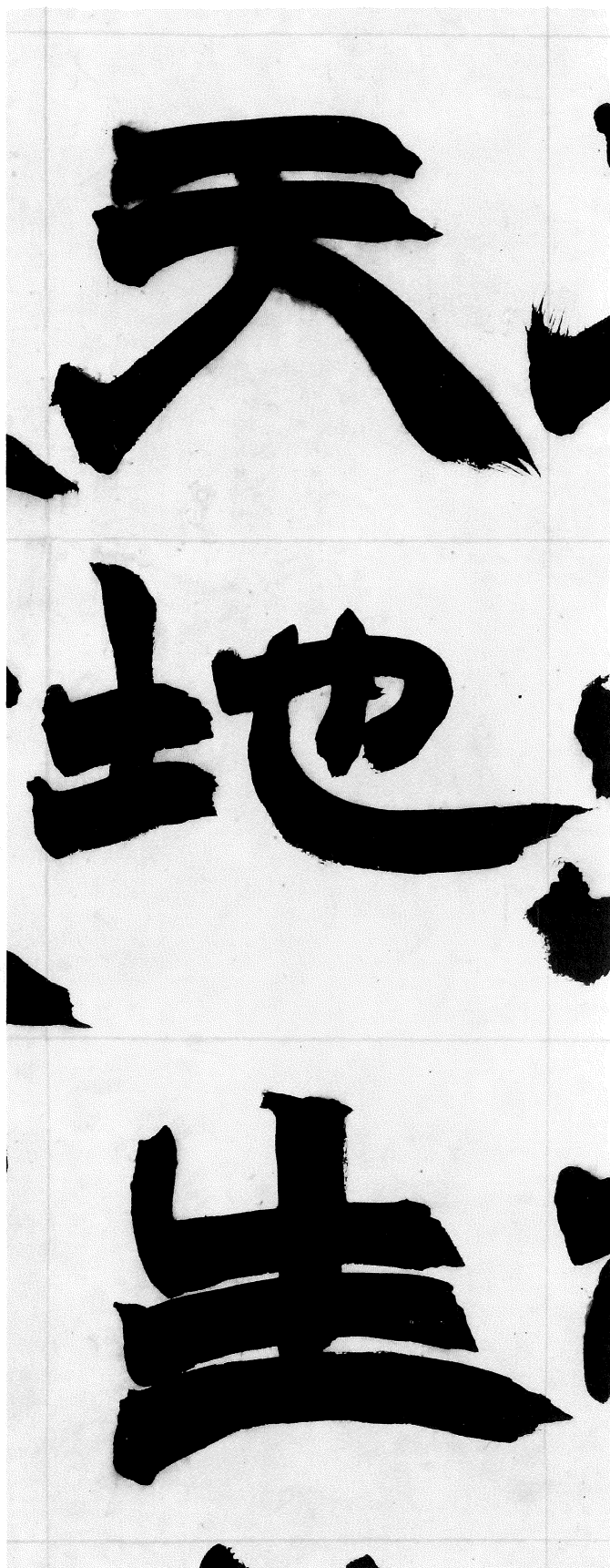
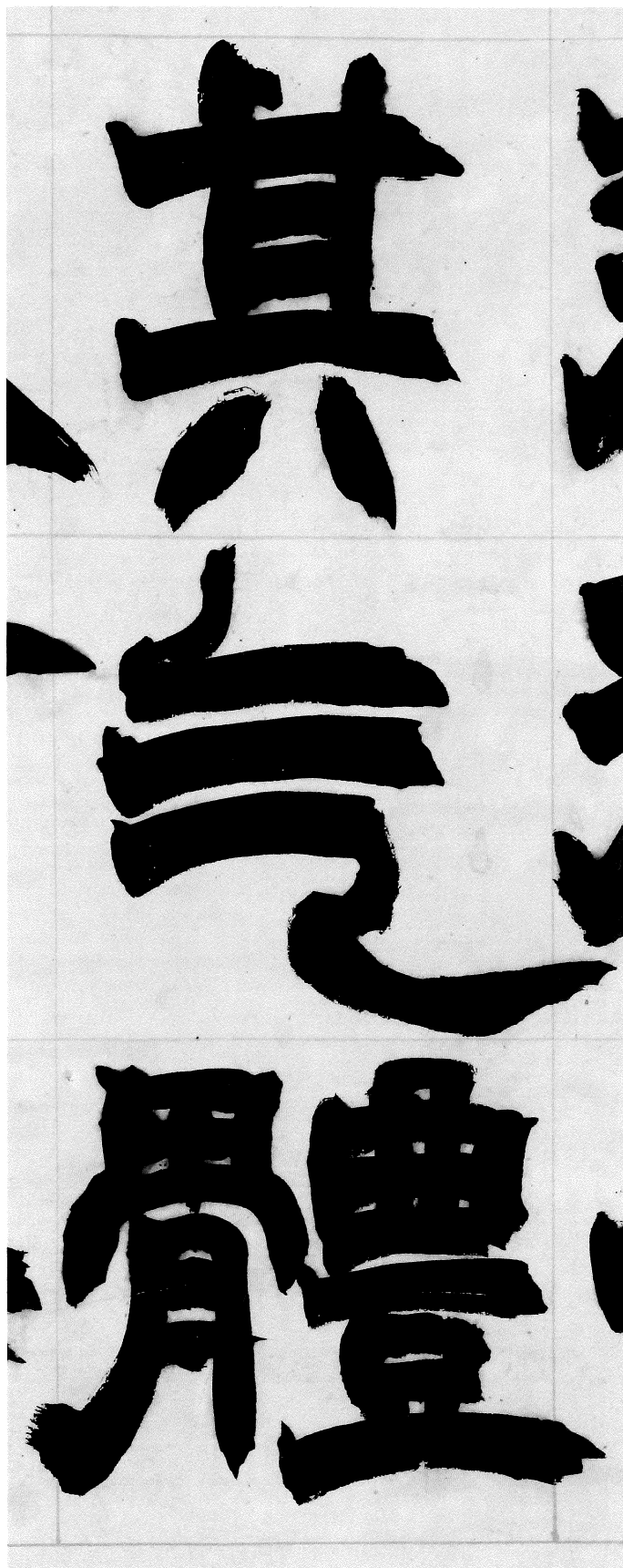
始萌可為色渾



沌不分故道德



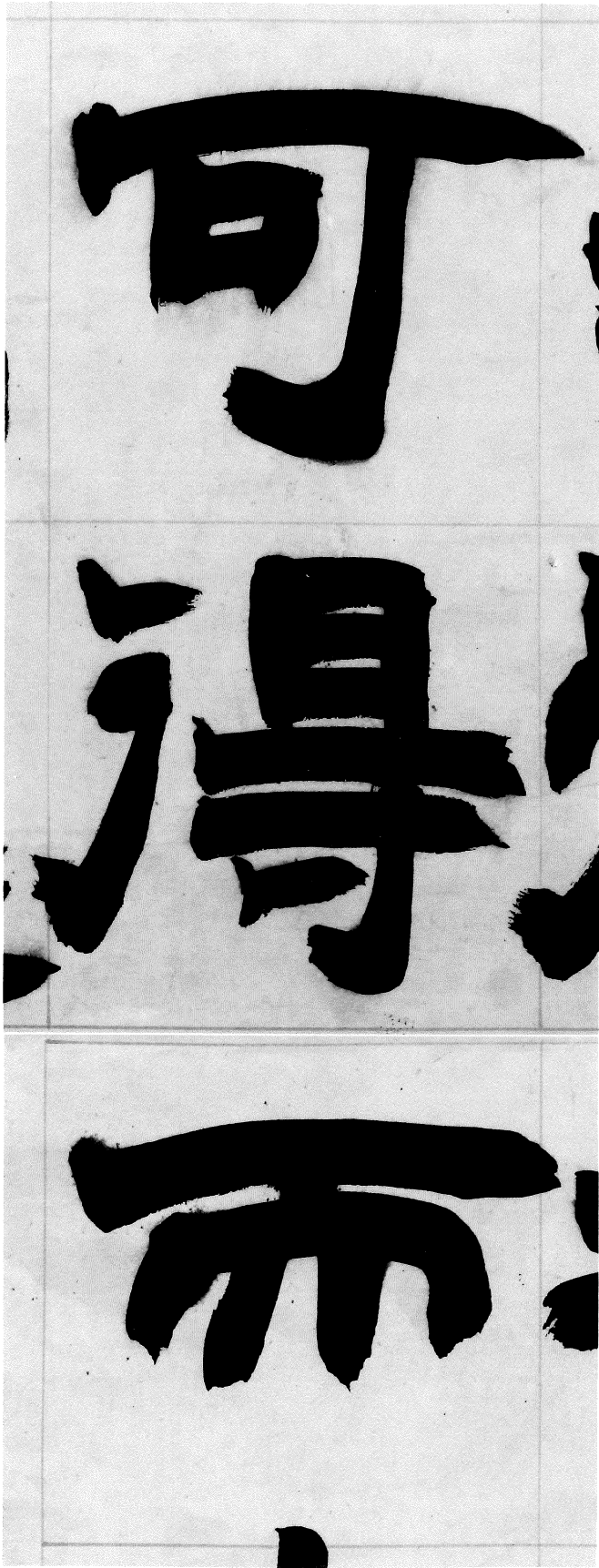
先成渾永之者



天地生其氣體



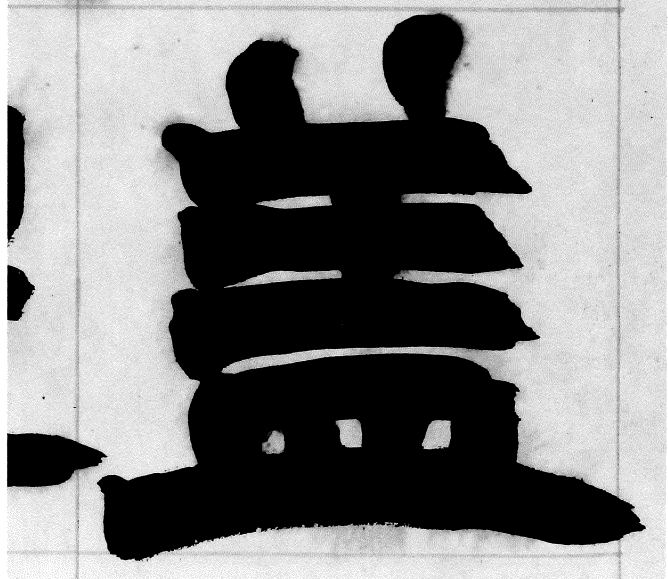
也道而形其遲



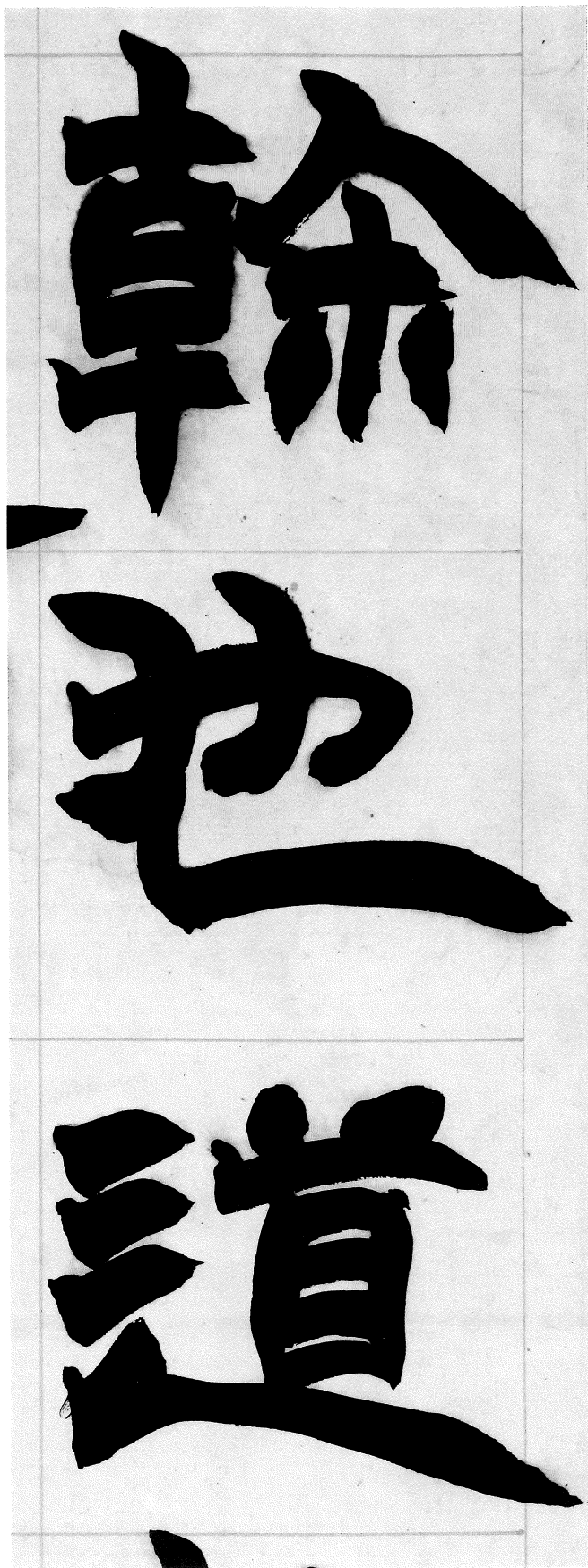
速固未可得而



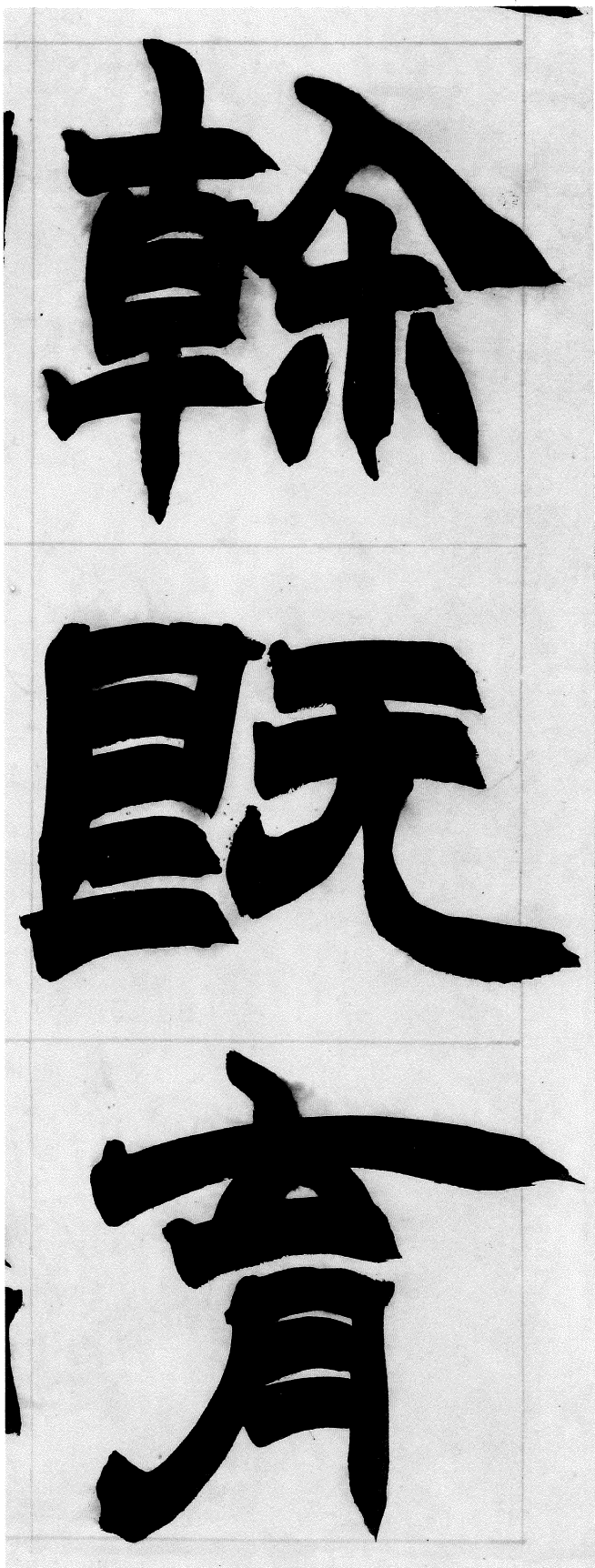
未天體又永久



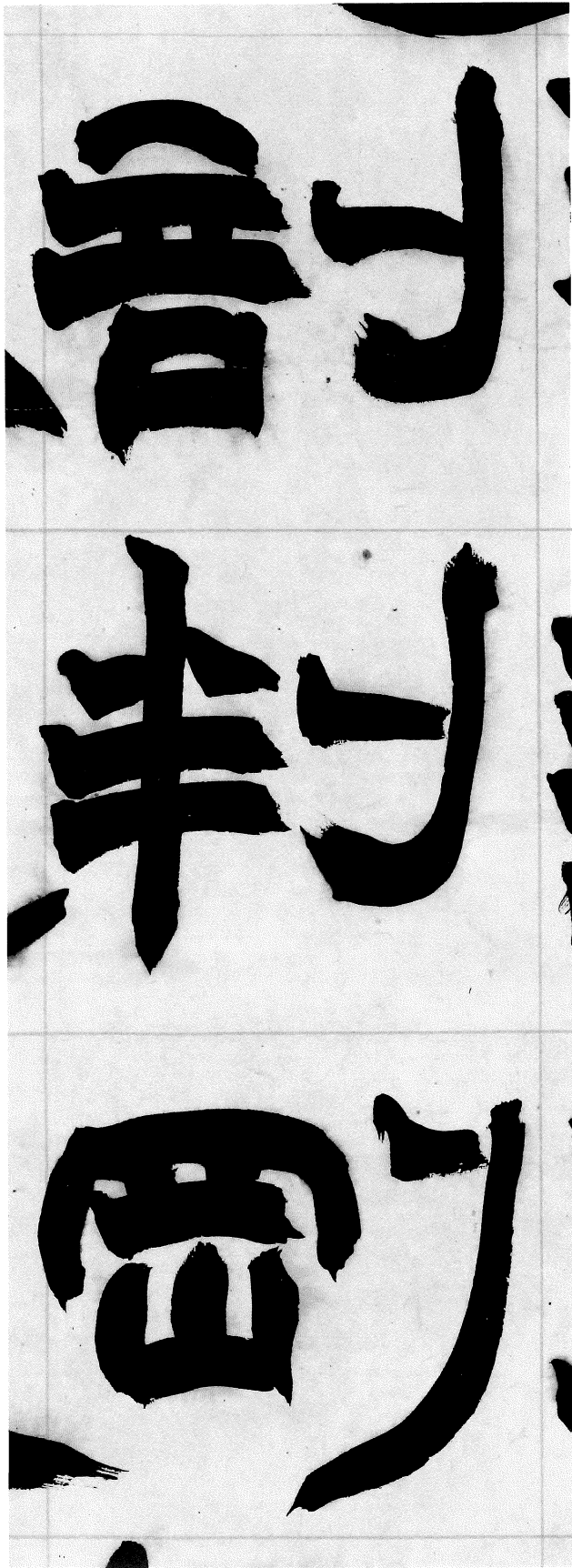
焉斯為龐鴻蓋



乃道之幹也道



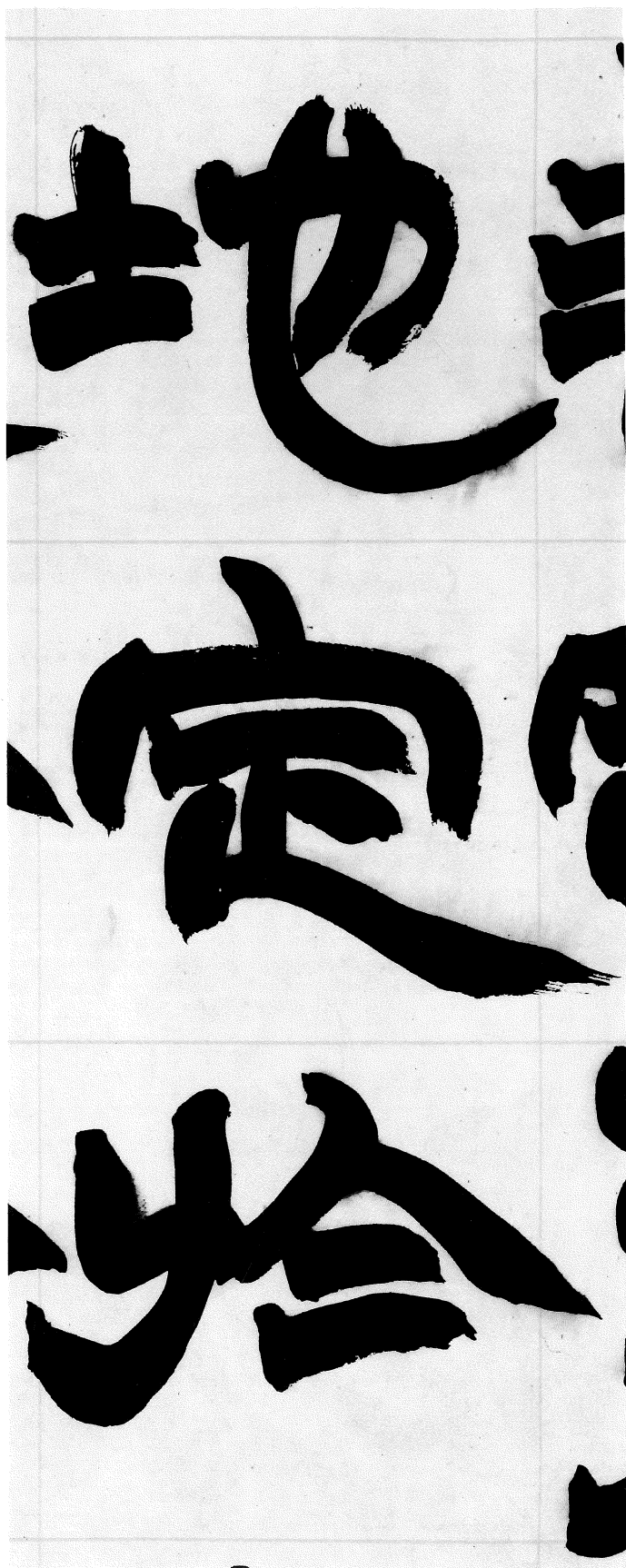
於體成育既翰



是元氣剖判剛



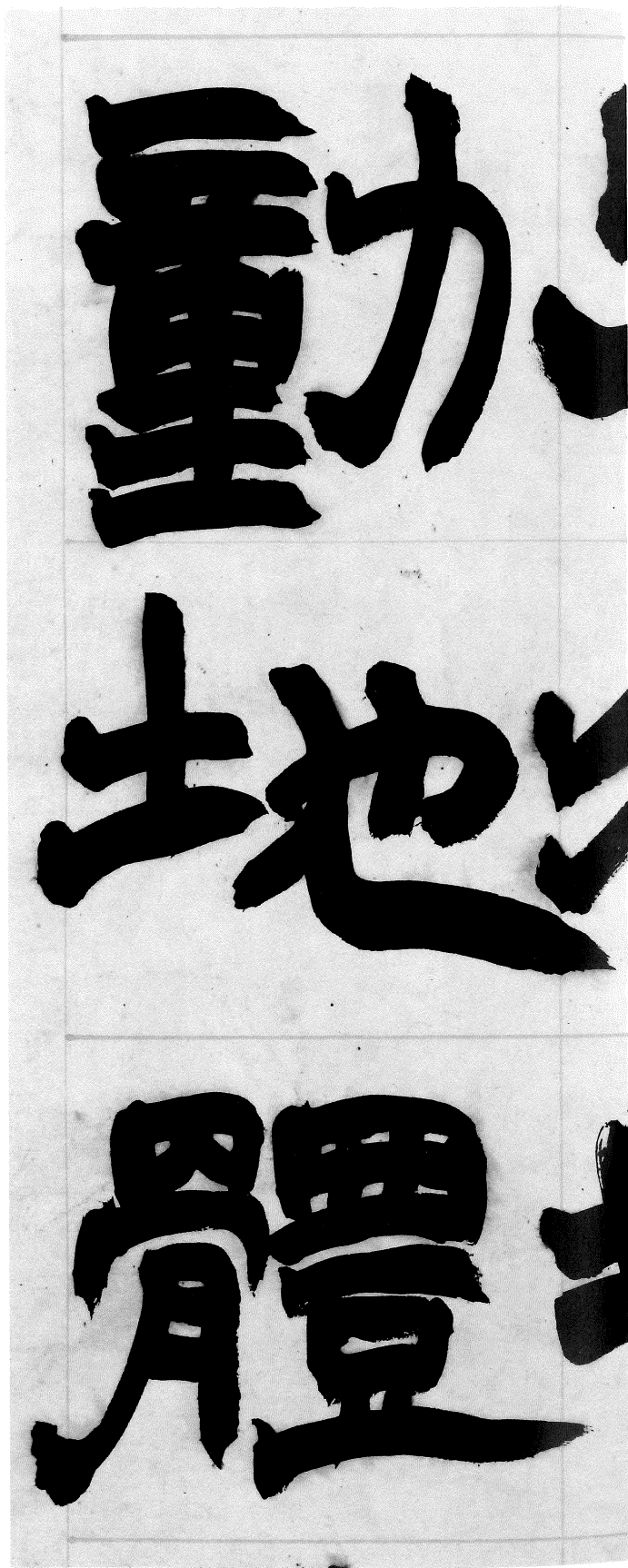
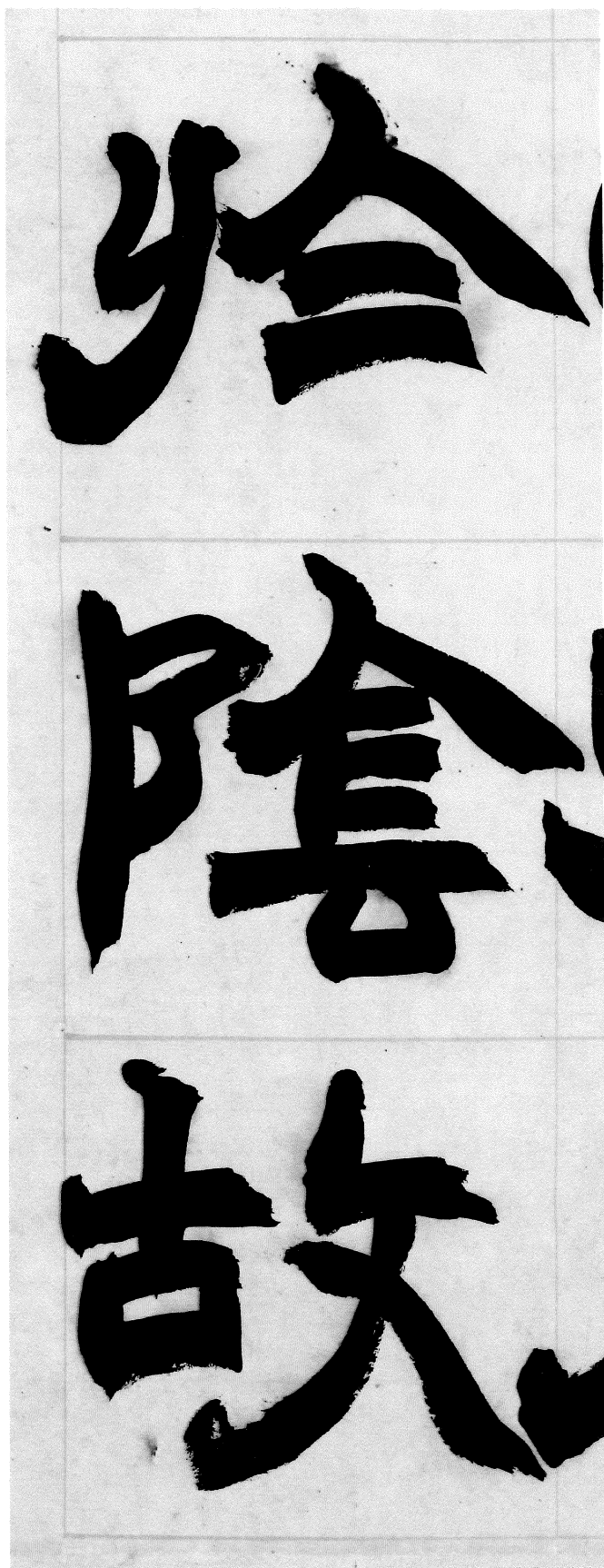
柔始濁異位天



成於外地定於



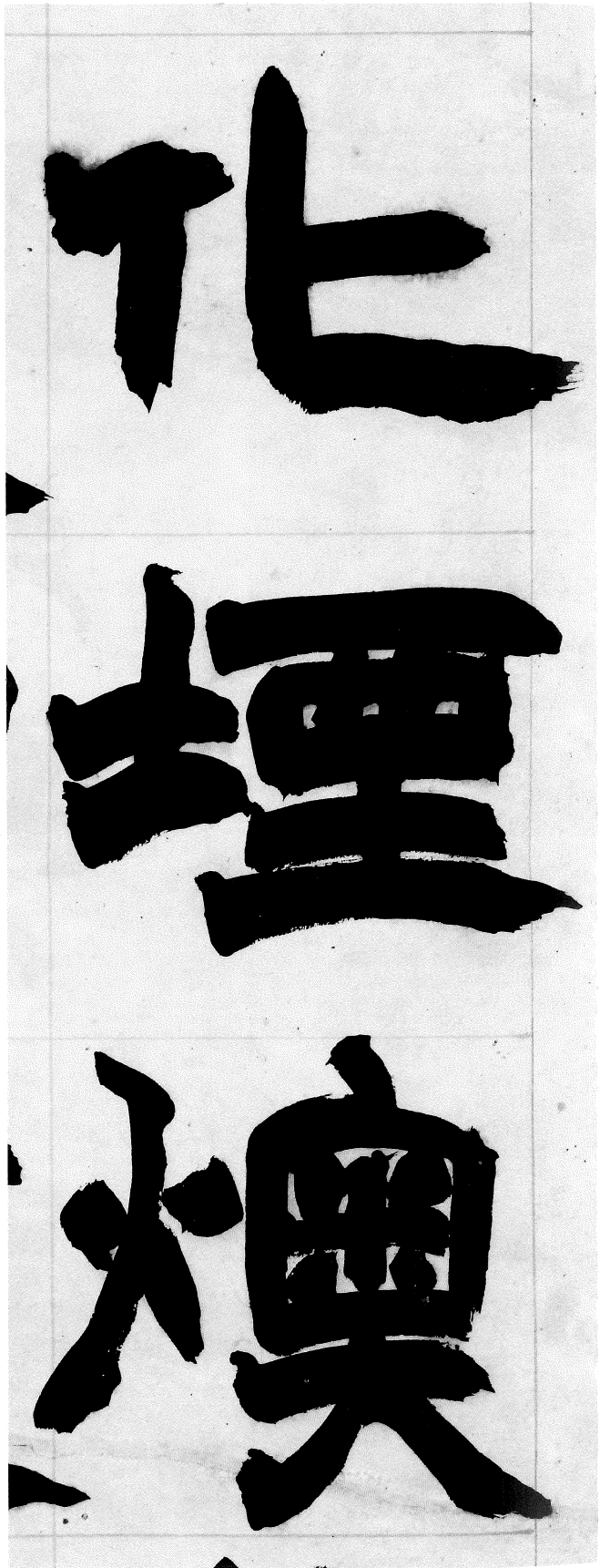
內於陽故圓以



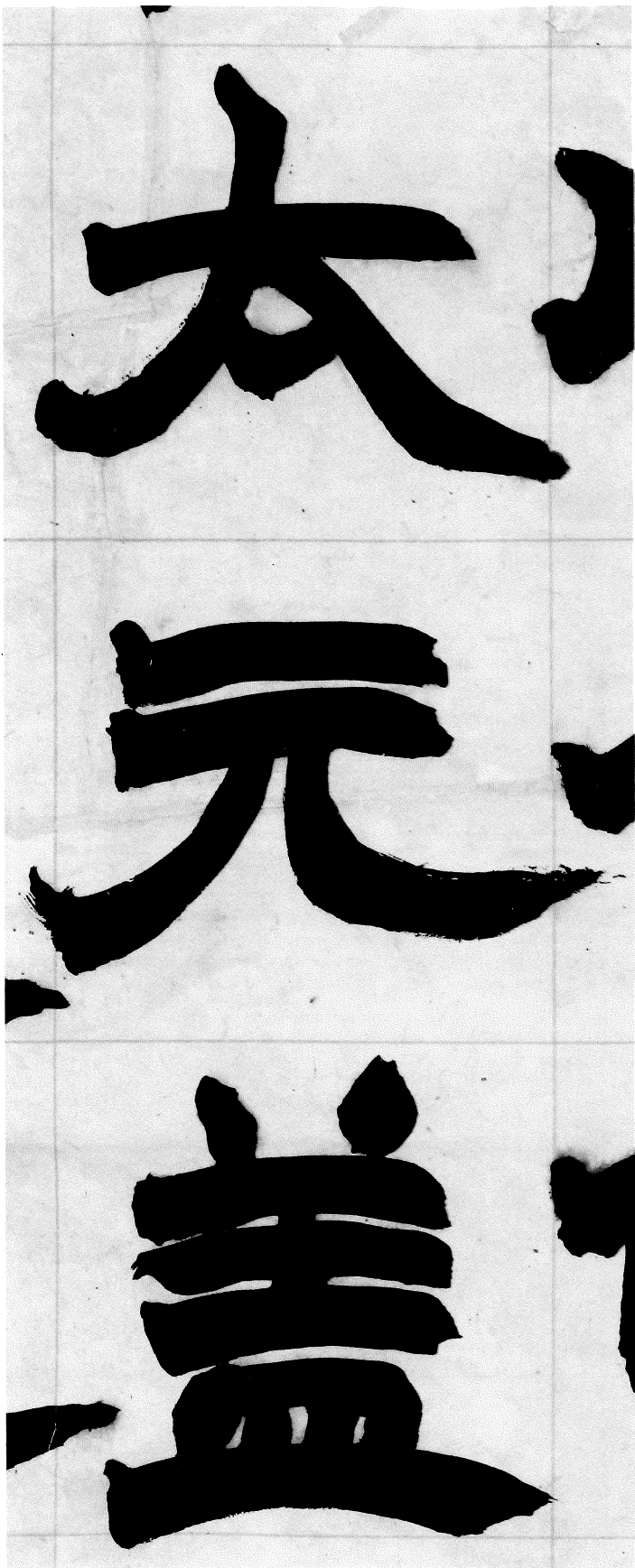
動地體於陰故



有物施方以合



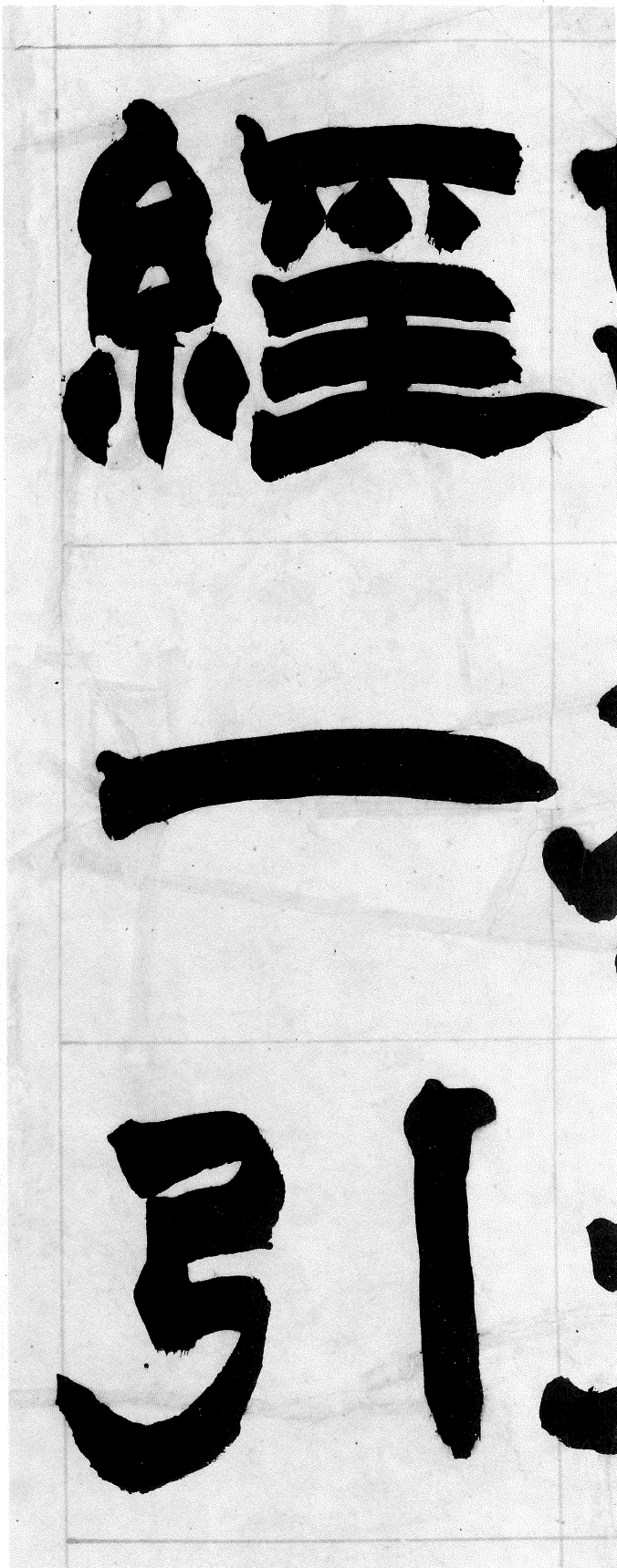
化煙燠萬民分



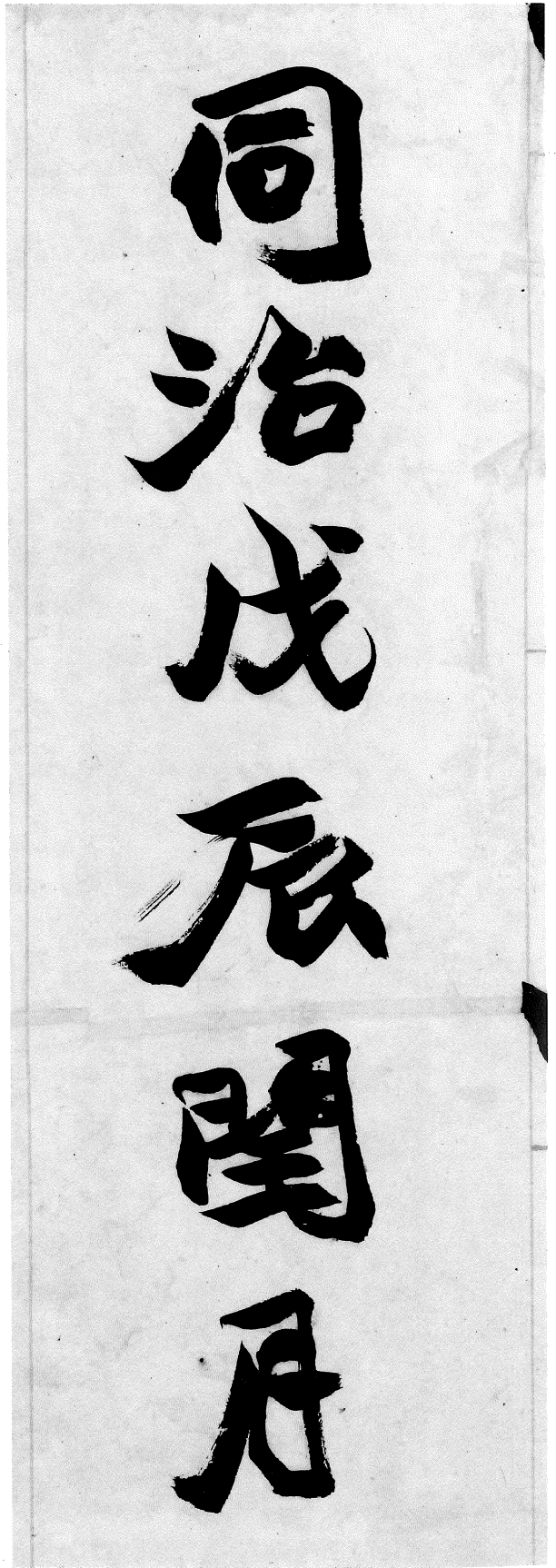
清斯為太元蓋



乃道之實元占



靈一引經



同治戊辰閏月。趙之謙。

伯循足下

得手書具悉。去冬前信亦到矣。乃滯留省中。非路上也。啟甫諸言。兄處早有人詳說之。此時渠在江蘇學幕。得意之秋。斷不招我。可不聞也。叢書二三集均刻。須俟畢工。方可刷書。多則寄進不便。又必俟解餉諸公。近來餉差。亦以八行主之。則恐非熟人。故愈不能速矣。通志書價。不過十餘千。兄儘可買贈。而書更多。箱又大。更不便。可於本年江西典試二人中。

伯循足下。得手書具悉。去冬前信亦到矣。乃滯留省中。非路上也。啟甫諸言。兄處早有人詳說之。此時渠在江蘇學幕。得意之秋。斷不招我。可不聞也。叢書二三集均刻。須俟畢工。方可刷書。多則寄進不便。又必俟解餉諸公。近來餉差。亦以八行主之。則恐非熟人。故愈不能速矣。通志書價。不過十餘千。兄儘可買贈。而書更多。箱又大。更不便。可於本年江西典試二人中。

或有貴同年即好矣。有一熟者。即作書與之。令其附帶進京最妥。如屆時。兄已交卸。則更便當。如未交卸。可令其將來書。交兩首縣。專差送來。以便買寄。不過四五天工夫可辦到矣。奉新本缺。為周京兆之泰山所得。京兆書力。大眾共知。想到任。亦必有書。以此作異濟院矣。則兄六七月間。必交卸也。倘能意外之獲。按至冬末。則明年兄亦可引退。人須知足。無發財相者。弄到點心錢。不求喫飯。如夏末交卸。則僅々有三年澆裹。斷不能走矣。

(或有貴同年即好矣。)有一熟者。即作書與之。令其附帶進京最妥。如屆時。兄已交卸。則更便當。如未交卸。可令其將來書。交兩首縣。專差送來。以便買寄。不過四五天工夫可辦到矣。奉新本缺。為周京兆之泰山所得。京兆書力。大眾共知。想到任。亦必有書。以此作異濟院矣。則兄六七月間。必交卸也。倘能意外之獲。按至冬末。則明年兄亦可引退。人須知足。無發財相者。弄到點心錢。不求喫飯。如夏末交卸。則僅々有三年澆裹。斷不能走矣。

約不能走十居八九也。縣中事頗簡。兄好問案。故更簡。本年又將廿餘年。老棍險。生密閉管押。看其光怪。
 則當少事矣。此棍實無一任。不與之。周旋勇衍。畏其力量。彼固刁獲狼戾。兄能武健嚴酷。惟其刀筆不甚。
 佳。則牛刀割雞耳。至毆差拒捕。猶不敢問。紳民皆喪膽。許仙屏。吃其大虧。猶登門與言覆應。可怪也。覺軒已得東鄉
 餐英。補吉水。皆佳。松溪坐擬二方。尚不願歸。意在補缺。兄能有半。即買棹行矣。且此數人。一文不打散。更
 老靠也。巧妻伴拙夫。世間成例耳。玉山得七竿。作弊無數。可謂好矣。

大約不能走。十居八九也。縣中事頗簡。兄好問案。故更簡。本年又將廿餘年。老棍險。生密閉管押。看其光怪。則當少事矣。此棍實無一任。不與之。周旋勇衍。畏其力量。彼固刁獲狼戾。兄能武健嚴酷。惟其刀筆不甚佳。則牛刀割雞耳。(至毆差拒捕。猶不敢問。紳民皆喪膽。許仙屏。吃其大虧。猶登門與言覆應。可怪也。)覺軒已得東鄉餐英。補吉水。皆佳。松溪坐擬二方。尚不願歸。意在補缺。兄能有半。即買棹行矣。且此數人。一文不打散。更老靠也。巧妻伴拙夫。世間成例耳。玉山得七竿。(作弊無數。)可謂好矣。

乃又於交代案做鬼思再弄一千餘金。賄屬藩司房為之。江西官之不可做在此。兄查出不受。伊大怒。以為不講交誼。卒興人險。極不虛也。現則兄處。稟擱已准。該受賄。此意亦不能駁也。惟彼心軟口硬。尚念々有詞耳。兩處為吾弟告幫。竟無一應。松溪處。當再作書言之。玉山不必言也。伊俟交案結後。即回去作鷗菴。賣買可以過半生矣。馬清渠當已見過兄處。信件不交浦丞。可交清渠也。此問日祺。兄弟之謙頓首。

二月廿二日。

（潘司寇信。祁送去為要。）

乃又於交代。案做鬼思。再弄一千餘金。（賄屬藩司房為之。江西官之不可做在此。）兄查出不受。伊大怒。以為不講交誼。卒興人險。極不虛也。現則兄處。稟擱已准。（該受賄。此意亦不能駁也。）惟彼心軟口硬。尚念々有詞耳。兩處為吾弟告幫。竟無一應。松溪處。當再作書言之。玉山不必言也。伊俟交案結後。即回去作鷗菴。賣買可以過半生矣。馬清渠當已見過兄處。信件不交浦丞。可交清渠也。此問日祺。兄弟之謙頓首。 二月廿二日。

西垞老弟如見屬宋侍郎事其書早發別
 圖事尚少切實處泛泛無益故從緩不能速也
 星堂所圖非實不可惟實處一動必須名世則何
 所便宜且亦無此閑頻擬從實以下設法下月必有
 消息矣成否總憑運氣此時望密言之浙西有事
 事早見信練溪信來益覺明白刻間暫定然事以
 遠慮為第一義倘實有動靜則宜預占退步微蘭

西垞老弟。如見屬宋侍郎事。其書早發。別圖事尚少。切實處。泛泛無益。故從緩。不能速也。星堂所圖。非實不可。惟實處。一動必須名世。則何所便宜。且亦無此閑。頻擬從實。以下設法。下月必有消息矣。成否總憑運氣。見時望密言之。浙西有事。早見信。練溪信來。益覺明白刻間暫定。然事以遠慮。為第一義。倘實有動靜。則宜預占退步。微蘭

稽依梅圃處。恐得信稍遲。仍乞以時知照。此時雖平安。不可不作未然之想也。此等會匪。原屬鄉愚。然不善治之。則次裂之。害甚于賊。亦以其為鄉愚也。此間苦旱火患時作。且有大火入文昌之謠。故場中萬分認真。傍晚即催滅火。然竟有卷袋依然。而卷子已為灰燼者。浙人胡仁耀僅得一卷。亦無他事。未知將來何如也。餘言詳練溪信。可問。童氏事。想竟作罷論。老憲曾催過矣。黃老必有信。不贅。此請叔安。不具。兄心頓首。四月四日。

雖依梅圃處。恐得信稍遲。仍乞以時知照。此時雖平安。不可不作未然之想也。此等會匪。原屬鄉愚。然不善治之。則次裂之。害甚于賊。亦以其為鄉愚也。此間苦旱火患時作。且有大火入文昌之謠。故場中萬分認真。傍晚即催滅火。然竟有卷袋依然。而卷子已為灰燼者。浙人胡仁耀僅得一卷。亦無他事。未知將來何如也。餘言詳練溪信。可問。童氏事。想竟作罷論。老憲曾催過矣。黃老必有信。不贅。此請叔安。不具。兄心頓首。四月四日。

去年有人來代
 兄索扇子以扇子值錢必須見還為辭為一失
 置之其時已寫一面旋即畫成轉無人來取矣
 委員至鄱陽多托寫信增差費者故不敢付頃沈梅峯參
 軍來特托帶上梅峯係弟世交亦中峯之世交非敢
 敢於弟求吹噓者特托轉交祈督存為幸此請
 直翁尊兄大人
 計好至為禱
 趙之謙頓首

去年有人來。代兄索扇子。以扇子值錢。必須見還為辭。曾一笑置之。其時已寫一面。旋即畫成。轉無人來取矣。委員至鄱陽。多托寫信。增差費者。故不敢付。頃沈梅峯參軍來。特托帶上。梅峯係弟世交。亦中峯之世交。非敢於弟求吹噓者。特托轉交。祈督存為幸。此請直翁尊兄大人叔安。愚弟趙之謙頓首。

趙之謙(ちょうしけん) 道光九年(二八五)―光緒十年(二八六)、字は馮叔(ほうしゅく)、冷君(れいくん)、悲盦(ひあん)、无悶(むもん)、愍齋(めんさい)などの号のほか、二金蝶堂(にきんてつどう)、苦兼堂(くけんどう)の堂号がある。父は守礼(しゅれい)といい、その二男として紹興で生まれた。十七歳のとき沈復(しんぷく)の門に入り、訓詁および金石の学を修めた。幼いころは家産も豊かた蔵書にも恵まれたが、次第に家運は傾き、二十歳を過ぎるころははなはだ苦学した。偶然、溧陽の按察使であった繆梓(みうし)が趙之謙の作った文章を見、その才能を見こんで幕下に招き、清朝の掌故を学ばせ、時の利弊を調べさせた。咸豊九年(二八五)に三十一歳で郷試に挙げられた。ただ当時、洪秀全(こうしゅうぜん)による太平天国の乱は次第に江南に広がり、郷試及第の翌年には杭州は陥落した。紹興も危険なので、妻の范敬玉(はんけいぎよ)も家を出て避難したが、咸豊十一年二月に避難先で没した。同年九月に紹興も陥落し、趙之謙の家は兵火で焼かれてしまった。この年の冬、彼は杭州から舟で福州まで避難したが、うちつづく不幸の中で、それまで用いていた冷君の号を悲盦と改めた。同治二年(二八三)には心機一転して、北京へ上京することとなった。北京へは繆梓の門下で親友でもある胡澍(こしゆ)と同行した。北京では沈樹鏞(しんじゆほう)、魏稼孫(ゑいかそん)など親交を持ち、金石の学に励んだ。また時の大官である祁寔藻(きじつそう)や潘祖蔭(はんそいん)らに寵愛され、文章を作ること依頼されたり、書画篆刻を求められたりした。同治三年からは无悶と号するが、おそらくそれまで鬱屈していた悲しみの感情がほぼ克服されたのではないかと想像される。北京には八年間滞在したが、その間、三度の会試に失敗し、遂に進士となることを断念した。五十歳ではじめて江西の鄱陽県の知県に任せられ、ついで奉新、南城の諸県を歴任したが、光緒十年十月に、五十六歳で病没した。

芸術家趙之謙を支えたその性格を考えてみるに、屈強で剛毅な自信家と、鋭利な理性を包含する内省家との相克ではなかったかと想像される。伝記中には「盛氣近づき難かった」(『寒松閣談藝瑣録』)とか、自らは「余少きときは、氣を負い、学を論ずれば必ず他人を疵(そ)り、郷曲(きやうきよく)から悪(わる)まれた」と亡妻范敬玉の事跡を述べた文章の中で告白している。こうした自信家である反面、書画における題賛や痛烈な批評の中からは、常に自らをきびしく律し、凝視する姿がよみとれる。初期の「冷君」の号、その後の幾多の遭難による「悲盦」、それを克服して「无悶」に至る努力と精進こそが、趙之謙の芸術の軌跡といえよう。書についていえば、趙之謙の北碑へのうちこみは、一方で『補寰宇訪碑録』、『六朝別字記』の自著に見られるように、模範の撰取であるが、また一方で隸書の筆意を楷書の中に持ち込むことにもなり、鄧石如(とうせきじゆ)、包世臣(ほうせいしん)らによって展開された逆入平出の筆法に、円転渾厚さが加わって、独特の世界をつくりだすことに成功している。

【楷書汜勝之書八屏】この楷書八屏は朱糸欄の施された紙に、『齊民要術』に引用される『汜勝之書』の本文百八十字が書かれている。『齊民要術』も佚書の『汜勝之書』も中国古代の農書であり、次の張衡『靈憲』とともに、文人のたしなみを持った人が作品の題材としては通常には取りあげなかつた書物である。一見してきわめて奇異で唐突な印象を与えるが、それを逆手にとって、堂々と北魏書の体臭がただようほどに書きあげている。趙の作品の中でも記念碑的な大作である。

【隸書張衡靈憲四屏】後漢の張衡の著とされる『靈憲』の一節を、隸書で四幅の屏風に書いている。『靈憲』は天文と占いを兼ねたような書で逸書であるが、之謙の題材としての文献涉獵には何か執念に近いものが感じられる。その奇異な題材を堂々とした作品にまで仕上げることこそ、趙之謙の芸術家としての苦闘と努力であったと考えられる。

	(所藏)	(釈文)	(頁)
趙之謙集			
楷書汜勝之書八屏	個人蔵	福本雅一	2
隸書張衡靈憲四屏	個人蔵	福本雅一	38
尺牘	東京国立博物館蔵	福本雅一	68
尺牘	東京国立博物館蔵	福本雅一	72
尺牘	東京国立博物館蔵	福本雅一	74

中国法書選 59

趙之謙集 清

1990年6月11日 初版第1刷発行

1991年7月1日 初版第2刷発行

発行者 渡邊隆男

発行所 株式会社二玄社

東京都千代田区神田神保町2-2 〒101

電話 03(3263)6051

振替 東京4-28782

原本 東京国立博物館蔵 他

解説 大野修作

釈文 福本雅一

表紙 ダイニック株式会社

印刷 株式会社東京印書館

製本 牧製本印刷株式会社

装幀 加藤光太郎デザイン事務所

ISBN 4-544-00559-0 05591

無断転載を禁ず